愛國婦人會機關
愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

愛國婦人

毎月五日二十日發行
一部金參錢　一ヶ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無郵送料
廣告料一行六拾錢
本誌全部紫陣紙
發行所　東京麴町區（牛ヶ淵公園）　愛國婦人會發行所
編輯兼發行人　山澤俊夫
印刷人　手島益雄

社說

愛國婦人會の光榮

愛國婦人會第五回總會開會に際し、畏くも　皇后陛下には親しく式場に臨御あり、且將來益々本會の盛大ならん事を望むとの御令旨を賜はる、本會の光榮何ものか之に加へむ、總裁殿下にはこの優渥なる聖旨に感激し、鞠躬盡瘁以て御懿旨に副ひ奉らんとを誓ひ給へり。

本會の光榮は總て會員諸氏の光榮なり、五拾萬の會員諸氏は宜しくこの尊く難有き御令旨と奉答文とを日夜に誦唱して肝に銘し、益々奮て　陛下並に殿下の思召に副ひ奉らんとを望み且祈るものなり。

戰後と勉强

一日の働きにも、一夜の眠りといふ骨休めあり、況んや戰爭といふ二年間の國民の大骨折り、殊に成績拔群とありては、大に祝ひ大に休まざるを得ず、乃ち戰歿せる軍人に對しては、臨時大招魂祭ありて、其靈を慰め、生ける軍人には、大觀艦式及び大觀兵式ありて、先づ其武者振りを觀、次ては公私大小の祝宴會あり、軍人を正賓としての國民の大祝ひ、今日は彼所明日は此所と首府東京を始めて、全國津々浦々まで、陽氣に騷いで骨休めして、祝ふだけは祝ひ、遊ぶだけは遊びて、今は丁度氣拔けの有樣、最早此上祝ふにも遊ぶにも、口實なきの時とはなれり、是迄暫くは休むが尤も、遊ぶが道理なりしも、是からは勉强せざれば理屈立たず、働くの外なきなり、凡そ癖は附き易く、取り分け遊び癖は最もつき易きものなれば、今に於て確乎せざれば、遂に遊惰の民とならずとも限らず、國民の最も戒心すべきの時なり。待つて甘露の日和は來ず、此度の大勝利もつまりは年來國民のいそしみ勵みし結果に外ならず。世界の競爭は暫くも停止せず、日一日と激しきを加ふれば、決して油斷し逸遊すべきにあらず、況んや戰勝が與へし日本の名譽と位置とを持ち續けて、一時の狂花ならず、永久の花盛り是れ見よと、世界の檜舞臺に立ちはたからんことを期するに於てをや。

戰後と節儉

凡そ戰爭、殊に勝戰の後には、氣分弛み且は是迄苦勞の埋め合せとて、奢侈遊樂に陷るは常なり、今の我國にこの事ありとは云はず、然れどもまた其兆なきにしもあらず、名にのみ聞きて見たこともなく、見んことも待ち設けざりし元祿とやらん桃山とやらんの衣裝の好み行はれ、出版物に交際に風俗壞亂の跡漸く繁からんとす、誠に恐るべく忌むべきことなり。驕る平氏は久しからず、戒むべきは此驕りなり。我が國は戰爭に勝ちたるも、國債は之れが爲に非常に增加し貧乏とこそはなりたれ、富めるにあらず、富みを作るは是れからのことなり、奢侈は貧乏の先き觸れにして、決して富の開拓者にあらず、今の時何を待ち何を恃んで奢侈に耽けらんとはする。戰爭中の苦勞は二重三重の祝勝會慰勞會等に由りて最早や帳消しとなりたる都合なれば、此上は戰爭前の常に還りて、一すら勤儉の外あるべからず。勝つて兜の緒を締めよとは、古今の名言、武器の戰爭すみて、一時激しき平和の戰爭に從事せんとするに當りて、奢侈が生み出す貧乏の武者振ひは、決して敵を威服せしむる所以にあらず。國力培養の基は家庭にあり、全國の家庭が無駄をせず、引き締りて勤め行かば、積る數億の國債は恐ろしきもの、左までの難事にあらず。三十餘年前佛國が獨逸に數十億の賠償金を出すに當り、豫定の年限以前に拂ひ濟ましたるが如き、全く家庭の勤儉なりしお蔭なり、國債を返すと償金を出すと、例へは異なれども、家庭の勤儉が富を作り出すの力あるは即ち一なり。而して其家庭を主宰するものは、取りも直さず婦人なれば、戰後の婦人の務は實に重大なりといふべし。其他日本の富の一大源泉たる蠶業を始め、種々の殖產事業に於ても婦人の手を煩すべきもの甚だ多きことなれば、此際國家に對する御奉公として、婦人は率先節儉勤勞の風を作興せざるべからず。之をその反對に、夫に強請りて、無き中より、美服盛裝して、人に誇らんとするが如き心掛けにては、百年立ちても國は榮へず、要するに國を興すも倒すも、婦人の心掛一つといふも大言にあらず。佛國の巴里といはゞ、世界流行の中心、驕奢の巷にして、殊に婦人の如きは美服盛裝して、天人の如く遊び暮せる者と思ひの外、一般巴里人の家庭は極めて堅實質素なるものにして、其主婦の如き、寸分の無駄なく、最も節儉經濟の道に長けたるものなり。其贅澤をする者は唯少數の富豪、外國の遊客、醜業婦位のもの、決して思ひ違ひすべからず。世界の大金貸國たる佛國すら勤儉此の如し、況んや富の度低き我が國は殊に戰後の今日に於てをや。

快活

世の中を樂しと見るも、苦しと思ふも、詰まりは、氣の持ちやうなり。黑き目鏡にて世界を見れば、春の花盛りも、暗雲慘憺と見ゆべく、薔薇色の目鏡にて世界を伺へば、掃き溜めも花の山と眺めらるべし。惡しきことは忘れて良き方のみを見るは得な人なり、良きことは棚にあげて、惡しき方のみ注意してクヨ／＼思ふは損な人なり、いづれは人世なり、隨分厭やもあり苦しき事あるは定なれども、それを蟲目鏡にて大きくして見ると、遠目鏡にて小くして見るとにて樂天とも、厭世ともなるなり。跛で、畸形で、牢屋に繫がれたるにも尚陽氣に笑ひ歌へる奴隷もあり。痛氣喘息其他七つの持病はあれど、其他は甚だ良しとて喜べる文學者もあり、櫻の實を食ふとき、大きくおいしく見せんとて、目鏡を掛けたるスペイン人もあり、すべて物は斯う見たく取りたきものなり。之に反して、結婚の御祝儀の島臺にある尉と姥との人形を見て此年まで手助の子がないかして、自身木の葉掻肩げて、松の木下掃除せる〻年寄夫婦の心入れがあぢきないとて泣き出す嫁もあり、「し」の字を氣にして青い顏する者もあり、丙午を氣にしてふさぐもの多き今日、餘り笑はれもせざれど、これらは求めて目出度いものをも、情なく、惡しく、陰氣に取るもの、何とも損なることなり。幸も不幸も氣持にあり、人は快活にありたきものなり。地球の何處かに何時も朝はあり、春はあり、鳥は鳴けるなり。戰後の失望か、神經のせいか、文學の中毒か、兎に角今の日本人、殊に若き者には、厭世悲觀の黑目鏡隨分少なからざるは、著しき現象にして、また氣の毒の次第なり。神代の昔天の石屋戶を閉て、刺こもり坐まし〻天照大御神を石屋より出だせまつりしは、八百萬の神共に笑ひたればなり、此の如く元來日本人は陽氣の民にして、物の光輝ある方面のみを見て、快活に暮らせるものなり、殊に婦人は天宇受賣命に於て、快活の代表者を有することなれば、尙更元氣を出し、氣分を快活に持ちて、如何なることなりとも、屈託せず、失意失望の夫をも勵まし、夫を失へる者は、自ら自らを勵まして、艱難を意とせず、何處までも忍耐と勤勞を以て押し通すてふ日本婦人の面目を充分此際發揮せんとを望むものなり、今や戰爭の喧囂終りて、人々漸く靜寂に眞面目に思考せんとするの時、殊には木の芽立の氣分鬱々とし易きの候、快活の說をなす、もし轉心の一助たらば幸なり。

總裁殿下の御出張

本會總裁閑院宮妃殿下には先月下旬支部總會台臨の爲め、京都及び石川地方に御出張あらせられたり、其詳細の狀況は本紙第五六頁に記せるが如し。高尙なる目的のために金枝玉葉の御身を以て、遠隔の地に御苦勞あらせらる、宜べなり軍人の遺族及び癈兵の子來して、其の御厚恩に感泣せること。此度の御出張の如きは誠に稀有のことなり、其本會、本會の役員及び會員延いては全國の婦人に、率先活動の御模範を示し給ふ、其影響や實に測るべからざるものあり、我等は今回の總裁殿下の御出張を以て遺族癈兵は勿論日本婦人の爲に、特筆慶賀すべき出來事となし、其難有思召しに感謝し奉るものなり、而して同時に殿下に陪從して出張盡力せられたる貴婦人の暖き心情に向て敬意を表するを禁ずる能はず。

種播き

朝顏、松葉牡丹、向日葵、鳳仙花等の花を賞づるもの、茄子、南瓜、胡瓜等の實を樂むもの、播かぬ種は生へず、播かば今が時なり、田舍は云はず、都市の人の額と家を見る外なき所に在りて、美花、嘉實の其間を點飾して、無限の自然を瞥見せしむる、これまた業餘の愉快たらずんばあらず。

電話番町五百二十番

◎本號には愛國婦人會第五回總會光景の寫眞版附錄あり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

米國婦人の經濟思想(上)

小崎千代子

▲婦人の經濟　西洋人は概して、贅澤でもあり、また能く外見を張ります、其の庭園の構へから、室內の裝飾、婦人の服裝など丶云ふものは、到底日本に於ては見ることの出來ぬ贅澤を致して居ります、併しこの贅澤をすると同時に、國民一般が經濟の觀念に富むで居りますので決して死金は使はない、金を活かして使ふのであります、例へば百圓の收入ある日本人と、是れに相當する收入ある西洋人との生活を比較して見ますと、後者の方が前者よりズッと贅澤をして居ります、然ばと云って前者は贅澤をせぬ代りに貯蓄が出來ると云ふてもない、要するに是れは西洋人は婦人までが鋭き經濟の觀念を以て、家事の整理や、服裝の上に細かき注意をなして、贅澤はしても夫れが爲めに困難の場合に立ち到ると云ふやうなことをせぬからであります、勿論國風の異なる所から日本婦人では實行し難き點も澤山ありますが、全體日本婦人は經濟思想に就て甚だ幼稚であるかと思ひます國を強くするも、家を安全にするも、皆なこの經濟問題が大なる關係を有って居りますから、こゝに私の觀察した米國婦人の事を少く陳べて見ませう。

▲獨立自營心　「働け、然らずんば餓へよ、これ天の聲なり」と信じ居るものは米國人であります、故に働くことは少しも厭はず、また賤みません、寧ろ徒食して低き生活に甘んずるものをいやしみます、米國では子供の時分から獨立自營の心を養成することに勉めます結果、この習慣が長じて米國婦人はなか〱働きます、其の一例を申しますと、敎會の婦人逹の會合に參りました時、恰度御飯時になりました、何しろ五百人からの大衆ですから仕度をすると云っても容易なことではない、私は如何にして是れ丈けの人が共に卓に着いて食事をすることが出來るであらうかと思って居りますと、この會員の內から十二三人ばかり炊事の任に當る人が出て、暫時にして御飯を頂けるやうに仕度が出來ました、其の敏捷實に驚くべしてあります、日本では雇人を多く使ふのを以て名譽の如くして居りますが、米國では其樣な無駄なことは致しません、主婦自らが能く働いて、成るべく下婢を使はぬやうにし、雇人に與へる費用を減じて是を他の有益のことに用ひるやうにして居ります、故に公共事業に盡すとか、又は多少の贅澤をなすとしても、男子から制裁されることなく、大概のとは許されるやうになって居ります、斯くて自然に婦人の勢力は發展され又社會から尊敬されるのであります。

▲吝嗇に非ず　日本の婦人は野菜其他買物をするに、家に於て商人の持ち來たるを待って買ひますが、米國婦人は其樣なことはしません、立派な生活をして居る家の主婦でも、下婢を連れて市へ買ひに來ます、吾れ〱日本人の眼から見ますと、日用の食用品ぐらゐて什麼にして何れだけの差が生ずるものかと思はれますが、其所が米國人の鋭き經濟思想のある所であります、彼の國の人は決して吝嗇な心から少しの金子にまで注意するのではありません、理由なきところに金を投ずる、即ち安價に買へるものを少しの手數而倒を厭ふて高價で買ふと云ふことをしないで、其の少金を積むで他の有益のことに使用するのであります、例へば敎育事業とか、慈善事業とか、社會の爲めになる事業に對して寄附する場合には、日本などに於ては曾て類例のない程の大金を惜し氣もなく投ずるのであります、斯くの如く日用品の買入れに留意した結果、社會に多大なる貢獻をなすことが出來るのを見ますると、鷄卵一個と雖も迂濶には買はれないと思ひます。

▲三十六歌仙

三十六歌仙とは、如何なる人々をさして呼ぶか、一條天皇の御代に、四條大納言公任凡そ三十六人の歌仙の秀歌各一首づゝを選びたるを、その後、覺鏡法師十八人づゝ左右に分ちて相對せるものを云ふなり、次の如し

(左方)柿本人丸、凡河內躬恒、中納言家持、在原業平、素性法師、猿丸太夫、中納言兼輔、中納言忠、源公忠、齋宮女御、藤原敏行、源宗于、源濟正、藤原興風、坂上是則、小大君、大中臣能宣、平兼盛(右方)紀貫之、伊勢、山邊赤人、遍昭僧正、紀友則、小野小町、中納言朝忠、藤原高光、壬生忠岑、源信明、源順、源重之、清原元輔、藤原元眞、藤原仲文、壬生忠見、中務

家庭音樂に就て

陸軍樂長　永井建子

▲士氣の作興と對外交際に關してなれば私の職責と覺悟して居りますが、家庭音樂と云ふやうなとは少々見當違ひかと思ひます、併し既に不完全ながら一小家庭を造って居ります上から、唯思付た點を少しくお話し致しませう。

▲家庭は和樂が生命で、音樂趣味は其半身です、日本の家庭には之れが缺て居て、西洋の家庭には之れが備つて居るとすれば、詰り日本の家庭は半身不隨であるものと斷言されます、何故に斯く音樂が家庭に必要であるかと申せば、必竟生活の苦辛の慰勞に備へるのであるから、圍碁よし、骨牌よし、讀書最ともよしと申す人も有りませうが、圍碁の狹少な區域と、骨牌の危險とまた古めかしいのに較べると、單り讀書可なりでありませうが、是れには制限が有ります、故に制限以外は又た他に慰めが欲しくなる道理であります、其所で結局音樂が娛樂の專有に歸して、すると謂ふ次第であります。

▲私の部下の者で、病氣から職を辭して今では海邊の空氣を呼吸する目的で、或る燈臺に勤務して居る者がありますが、彼は唯一ツのバイオリンを抱て一生を孤獨に暮す方針でありまして、常に彼の音信に由て察して見ますると、太平洋の茫々たる雲煙に包まれ、怒濤の飛沫に孤衣を曝らして居る彼の境遇に取っては、此一小樂器が彼の爲には可憐な妻で、此可憐な妻の秘語が如何程彼を慰めつゝあるかが知れます、此の如くの孤棲の身の上には、何物よりも音樂が必要であると云ふことを現示して居りますが、複雜の家族に於ける慰安も、清く濁りなき趣味を持つはこの音樂であると思ひます。

▲私が佛國に居ました時、ボーダンと云ふ友人が在りましたが、其の父兄は商工て家庭が頗る面白ひ、毎度其の家へ招かれましたが、食後必ず音樂が家族の上に始ります、且「サン、ピチエー」と云ふ、少々外題は酷てすが、それは脚色の意味で、則ち無慈悲と云ふオペレットなのてす、それが其の家庭の大得意なもので、白髮の老父が貧困な親爺に扮し、兄弟が警察官と書記とに成って、老母の洋琴に合はして謠ったり語ったりするのであります、なか〱面白い、そして幾度も練磨して居ますから、頗る巧者な遣り方でありました。

▲中古三十六歌仙

中古に於ける三十六歌仙とは和泉式部、相模、惠慶法師、赤染衛門、能因法師、伊勢大輔、曾根好忠、道命阿闍梨、藤原實方、藤原道信、平宣文、清原深養父、大江嘉言、源道濟、道雅卿、增基法師、在原元方、大江千里、公任卿、輔親卿、高遠卿、馬內侍、藤原義孝、紫式部、道綱母、藤原長能、實綱卿、上東門院中將、兼覽王、在原棟梁、文屋康秀、藤原忠房、輔正卿、大江匡衡、安法法師、清少納言の三十六人、是れを稱して三十六歌仙と云ふ

▲斯樣な次第で、老壯の差別なく得々と演ずる勇氣と、其の家庭の趣味が既に之れ一つて圓熟して居ることを示して居るのに深く感心しました、是れ等のことに就いては、私も歐行前から家庭に着目して、能く謠曲の輪唱や、能の手振は人手を藉らずして家族の調和を行ふに適切なるを認めまして、洋式を其所に加味して行ふたこともありました、現に吉野落や、小楠公と其の父母などを模してオペレットを作り、妻子と倶に行って見た例もありますが、それが頗る愉快であつたのみならず、他に智識の發達を促して來たと思ひます、必竟人世は面白く生活することを、處世の苦痛の中に發見せねばならぬのでありますから、此點に須からく注意しましたならば、自ら苦もなく仕事が出來る道理であります。

▲其處て斯やうなとは專門家ならでは不可能と一概に云ふ方もありませうが、決して左樣てはない、人は學ばずして夢想するのは大なる誤解であって、男女長幼を論ぜず、學んで後に行ふとの覺悟を持たねばなりません、よし此の餘裕がないとすれば、せめては音樂を聽いて耳に習慣を附け、專門家の作や技の上に尊敬の念を拂ふて、音樂其のものゝ趣味を喚起し、而して自己の德性と信念を養ふべきであらうと思ひます、勿論我國には是等の機會の少いのは止を得ませぬが、少なければ少い丈け夫だけ機會に臨んで是れを失せぬやうにせねば成りません。

▲斯の如くして音樂趣味を擴めませうなら、意想、詩趣、劇的行進、舞踏、會話、辨祭等、孰れも美術の見地を見ることができて、自己の趣味から家庭一般の趣味を作りだすことができます、詰り私から申上ますれば、論ずるよりも實行する勇氣を鼓して、音樂に於ける美妙幽遠な趣味を理解した上て、自身の過去が如何程無味乾燥て居たかを觀る如き期に達せられて、而して家庭を高尚になされんことを、希望する次第てあります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小說

螢のゆくへ

徳田秋聲

田も畦も一面に露に光ッて白くなッてゐた。月は無かッたが星明りの夜、それに螢が數知れぬほどくんづほぐれつ飛違ッてるから、其處らは薄ッすりと明るい。螢の鄕と謂はれるだけあッて、實に螢の多い村であッた。一體此の村の水が奇麗だ、木の蔭に湧く淸水、村を縱横に流れてゐる小川、流ても井戸ても、水が冷たくて淸らかてある。それて螢が多いのかも知れぬ。

折々輕く田圃を渡ッて來る風が、丈の延びた靑い稻の葉に爽な音を立てゝ、忍んて來る樣に密と自分等の傍に觸る。草の葉は、ほか〳〵夜氣を吐て晝の熱を冷してゐる。闇を透して見ると、薄ッすりと霧が渡ッてゐた。彼方にも此方にも、「螢來い、山吹來い」と螢を呼ぶ聲がする。

「姉さん、螢は何故甘い水が好なんてせう。甘い水が好ッて眞ンとてせうか。」

「そりや眞ンとてせうとも！……新ちやんだッて、お砂糖水がお好ぢやありませんか。お砂糖水て無くッても、甘い物は何んても。」

「そりや僕は人間だからさ。人間と螢とは違うぢやありませんか。」

「然う……ても、螢も活きてゐますのね。」

「活きてゐたッて、那は蟲だ……」と大威張て謂ッて螢籠を振廻す……すると眼前を、つ、つ、つ、ついと、闇を縫ふやうに飛び行く螢。螢も、大きいが、光も、鮮麗であッた。

「此奴も捕虜だ！……」と新ちやんは、呟くが疾いか、片手に持ッた笹ッ葉を結び付けた竹竿を振廻して、たゞ一と打に叩落す……螢は、草の間に落ちて、それでものんきに光ッてゐるところを、暖い手て苦もなく抑へて、籠の中へ入れる……籠の中には無慮百に餘る所謂捕虜の螢が光ッてゐた。

新ちやんは、嬉しげに肩を搖ッて、

「今夜も餘程捕ッたね……ね、姉さん。」

「然うてすね、もう其の位ゐ居たら澤山てせう。また明日の晩來ませう、餘り夜露に當ッてゐると毒てすから……」

「嫌だ！もう少し捕へませう。今夜はどッさり出てゐるから、僕千も二千も捕らうと思ふんだ。」

「ま、彼樣な大きなことを謂ッて……」

「大きなこと……可けないや、姉さんは其樣なことをいふから嫌さ。僕大きなことをいふもんか、だッて、僕一人て、これだけ捕ッたんだぜ。姉さんなんか。一ッ匹も捕ッて與れやしないぢやないか。姉さんが少し手傳ッて與れたら、千や二千譯は無い。」

「其樣なに捕ッたッて爲樣が無いぢやありませんか。明日になると、皆溶けて了うんてすもの。」

「そりや溶けて了うけども……」と新ちやんは少し悄げて「だけども……だけどもね、捕へてゐるうちが面白いさ。」

「新ちやんは面白くッても、螢の方は苦しいわ。新ちやんがもし、此樣な牢屋のやうな中へ入れられたら何うてせう。窮屈ぢや無くッて？……」

「そりや窮屈かも知れないけれども、螢は蟲だ。窮屈だッて何んだッて管うもんか。」

新ちやんは、今年六ッになッた子てあるが、なか〳〵理屈ッぽい。姉さんの方は十七八、もう螢を追ッて悅ぶ年てもないが、弟にせがまれて、爲方なしに螢亂れ飛ぶ田圃の夕闇を愛てながら散歩に出たのてあッた。

一體新ちやんは、遊ぶことゝ謂ッたら、何んても嫌なものは無かッたが、取分け螢狩といふと夢中てあッた。お家の方が皆集ッて晩の御飯が濟む、凉風そよりと立ッて、夕闇の中に夕顏の花がほの白く搖き、門の田、背戸の徑に、螢を呼ぶ聲が聞えるやうになると、新ちやんは我慢に熟として居られなかッた。そこてお婆樣や母樣が嚴しく有仰るのを管はずに、姉樣に强請ッて、雨さへ降らずば密と螢狩に出るのてあッた。

それて新ちやんは、毎晩此の田圃て捕へる螢の數といふものは幾百だか幾千だか知れない。新ちやんは毎晩捕へた螢を籠に入れて充分に水を與れて戶口に掛けて置くのてあッた。さて翌る朝、眼が覺めると直に樂にして螢籠の中を覗いて見るのてあるが、何時の朝ても一匹の螢もゐたことが無い。誰かに取ッて行かれるのか、それとも螢自身消えて了うのか、一と朝ても一匹の螢が殘ッてゐた例が無い。家の方等に螢のゆくへを訊ねると、誰方も知らないといふ……新ちやんは、これが不思議て耐らなかッた。そこて或時眞面目になッて母樣に其の因を訊ねたのてあッたが、母樣の御返事が面白い。

「そりや何んてせうよ、きッと。螢といふ蟲は露を吸ッて活きてゐる蟲てすから、旭が出ると溶けて了うのてせう。露が旭を受けて溶けて了うやうに！……もし噓だと思ッたら、新ちやん日の出ない前に起きて御覽なさい。多分螢は籠の中にゐますよ。」

新ちやんは、成程と思ッて、一と朝日の出ない前に起きて、前の夜捕へた螢を見やうと思ッて居りましたが、何うもつい寢過して了ッて、その望が適ひませんてした。そして新ちやんは、螢といふ蟲は日を受けたら溶けるものと思ッて居りました。

新ちやんは、今、ふと此の事を思出して、

「だッて姉さん、窮屈だッていふけれど、たッた一と晩のことぢやないか。明日の朝になると、皆溶けて了うんだもの。」

「ふゝゝ。」と姉さんは笑出して「然うてすのね、新ちやんに捕へられた螢は、皆明日の朝になると溶けて了うのね……ひよッとすると、今夜のうちに溶けて了うのかも知れないわ。」

「馬鹿謂ッてら……其樣なことがあるもんか。姉さんは馬鹿だ……だッて、今夜旭が出るもんか。旭が出なければ、螢は溶けやしないよ。」

「然うてすね、眞ンとに然うなんてしたッけね。」

と姉は、たゞ笑ッてゐる。

「然うさー」

と新ちやんは大得意ー

＊　＊　＊　＊

何時になッたら、新ちやんの此の智慧も溶けて了うてありませう。螢は毎晩新ちやんが寢て了うと直に母樣かお婆樣が放してお遣りになるのてありました。

君がゑみ

岩野泡鳴

ひねもす室に
　たれ籠めて、
なやみある身を
　君知るや。

かしらに傳ふ
　雨滴りの
垣根に落つと、
　見しは夢。

板戸のそとに
　降る雨を
君が笑みとぞ
　覺めにける。

谷水

朽ち葉を分けて、
　谷水の
流れ一すぢ
　かげ見えず。

たゞ響きのみ、
　ちろ〳〵と、
靜けき谷を
　行くごとや。

戀しの君の
　おもかげは、
のこる聲にも
　見ゆるなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

吾人の娛樂

幹事　古屋ます子

▲人を救ふ事　世の中に人を救ふ程樂しみなことはありません、私は芝居も見度いと思ひませんし、物見遊山に出掛ることも左程望みませんが、只有形無形の同情を以て人を救ふた時は眞に愉快を覺えます、此間軍人の遺族でしたが、常てさへ不自由な生活をして居るのに、夫の留守中に子供が病氣になり、非常な困難に陷つて居ると云ふことを他て聞きまして、私は家に歸る早々夜分男を連れて芝に行き其の家を尋ねました處、子供は旣に死亡した後て、誠に殘念てしたが、先づ尋ねて少し許りの物品を置いて來ましたから、漸やく落着きました。

▲娛樂と修養　御互に主婦となりたる者が、自分の身のまわりを儉約して、他人の難儀を救ふとか、或は同情を以て他人を慰藉するとか云ふことは、甚だ樂なことて、身分相應何人にも爲し得られることであると思ひます、其の上自分を制裁すると云ふ氣風も自然養はれて來ますから、この種このとをなすは娛樂のやうであつて娛樂でなく、多少精神上の修養にもなることかと思ひます。

▲婢僕と働く　此れも私の娛樂の一つて御座います、働かなくも用事は足りるから、少し身體を休ませる樣にと申されますが、迚も働かずには居れないので御座います、私共の如く商家て御座いますと、男女の雇人が四五十人も居りますから、例へば家の掃除や店の整理に致しましても、私が働く中に交つて居ますと、何の故てすか一同が大變喜んで働いて呉れ、仕事も早く出來ます、其他何かに都合が宜しいので御座います、殊に橫濱と東京とに店が御座いますから、何うしても一方には主人の留守が出來ます、其れて私も商賣が大切と思ひますと迚も引込ては居れません、是れと云ふ仕事もありませんが、常に身體が忙がしいので御座います、人樣が御覽になりましたら、何と思召すか知れませんが、私に取りましては、只自分一人の心身の安樂を計るより、婢僕と共に働くのが遙かに樂しみなので御座います。

夜啼の話

糸左近

痛いとも痒いとも言ふことの出來ぬ赤ん坊ならば、夜晝と無くオギヤ〳〵啼くけれど、この啼くのは我等の言語に相當するもので、必ずしも苦痛を訴ふるのみでは無い、さればこれが母たる者、唯義務的に乳房を哺ましむるを以て事足れりとせず、能く其の啼く所以を考へて、坊の滿足を得るやうにせねばなりませぬ。

併し今玆に「夜啼」と題して揭げましたのは、其れとは違ひ、主に三歲から六七歲までの間、稀には十四五歲までも、就寢後一時間乃至は三時間も經つと、突然に目が醒め、甚だ驚き怖れたる狀態をなし、精神大いに昏亂し、或は啼き、或は噪ぎ、如何に父母が之を撫て之を慰むると雖ども一向聞き入れないで更に其父其母たることを辨へぬ、即ち目が醒めてるとは言ふもの、其實夢中の如くなるを言ふのである。斯くして十五分間乃至は三十分時間も過ぐれば、精神始めて己れに歸り、間も無く眠りに就くが普通である、それて明日になつてから、何ぜ昨夜啼いたかと尋ねても更に之を記憶して居らぬ、實に本人も可憐なものであるが、是を見る親の身になつても、毎夜〳〵の事であるから、まア何うしたら宜からうと嘆くは無理ならぬとだ、併し毎夜て無くて一週間に二三度或は一月に三四回に過ぎぬもあれば、稀には一夜に二三度反復するも有る、短き夏の夜などは殆ど寢ぬ樣な始末て、夫故夜明けてからスヤ〳〵熟眠するとは面憎い位なものです。私の實驗したのは、十二歲の少女で、寢てから三時間程經つと『母樣』と呼ぶ、『ハイ』、と答ふ、又『母樣』又『ハイ』、何の用かと尋ねても、そは一向夢中て、矢張呼ぶ、斯の如き事數十回も重ねたる後、『この位呼んでも答へてくれぬとは、母樣も餘りだア――〳〵……』と啼き出し、これより百方慰めても承知せず、豈夫に可愛我娘の事なれば、放棄つて寢るわけにも行かず、彼是して一時間位啼き通したる後遂に眠るが常てあつた。この外色々の風變りも有るけれど、そは略して何ぜ斯うなるかとの原因に移りませう。

原因は主に恐る可き幽靈などの話をして聽かせたり、或は夫等の圖書を見せたりして、小兒の精神を强く感動せしめたのである。左無くとも、小兒を懲さんが爲に『母樣が死んだら何うする』などゝをどし、小兒をして悲觀的に陷らしめ、それが本病となることもある、この外虛弱なる體質、貧血、胃病、心臟病、癲癇等が之を誘ふものである。又小兒が寢てから其の家族が或は骨牌或は談話、或は讀書などして、熟睡の防害となる可き事を爲れば、それが爲に何も言はぬ赤坊の時より、この病に罹ることが有る、嗚呼子を有つ親は能く注意せねばなりませぬ。

この療法に就いて學術の進歩せぬ昔は隨分滑稽な事をしたものだ、或は國王の御名を書いて枕元に貼つたり、或は神佛の像を置いたりした、これは魔の物が啼かすのだと解釋したからでもあらう、併し原因の了つた今日には、其の原因となる可き事柄を避けねばなりませぬ、即ち他に病氣あらば早速醫療を受くると同時に家庭の改良をなし、早く起き早く寢ね小兒をして熟眠の防げとならぬやう、換言すれば小兒が安心して眠る樣にせねばならぬ、且又平生に、小兒の精神をして、憶病ならしむる談話圖書を禁じ、殊に臨臥には愉快に樂んで眠らすことが肝要である、又食物の衞生を嚴にし、務て大氣日光に觸れしめ、活潑に運動なさしむる習慣を養へば自ら「夜啼」も亦止みます。

食物の調和

くりやの人

吾人の生活機能は體內の物質が絕えず分解して「エネルギー」を生ずるにより起る、この分解する物質を補ふ爲めに食物を攝取す、されば食物は其の成分に於てこれ等の物質と同じきことを要するは論なきことなり、然らば如何なる食物を取るべきや、は第一に來るべき問題なり、されど日常吾人は殆どこの問題につきて頭を惱ましむることなく、好む所のものを食し、欲する所の物を飮み、しかも平然として吾人の身體は益々健全なり、これ吾人の嗜好が天然に吾人の身體に必用なるものに向ふによるものなるべし、然れども誘惑に脆き人間のことなれば、妄に好惡に乘じて、飮食し、爲めに大不都合を生ずるは必然の理なり。

故に吾人は先づ毎日如何なるものを體外に排泄するやを考究して、これに對應する食物に論及せんとす、第一に來るものは水なり、水は體重の約三分の二を占め、呼吸により、又皮膚より（汗等となりて、或は尿等により排泄せらるゝこと大人一日平均二乃至三「リテル」に及ぶ、これを補ふには必しも水として飮用するに及ばず、或は肉中に含有さるべく、或は野菜中にあるもあるべし、第二、吾人は日々約三十瓦の尿素を尿より出す、尿素は含窒素物、殊に蛋白質の最後の分解成績物なるを以て、これに應ずる蛋白質を要す、其の量平均百二十乃至百五十瓦に至る、第三、吾人は常に三十七度前後の體溫を保たざる可らず、而して皮膚により、呼吸により、其他冷食物を食したる時は、これを溫むる爲め等により、吾人の熱を消費する量は、實に漠大なるものなり、加之吾人は相當の仕事をなさゞるべからず、熱力學によれば一「カロリー」の熱は四百二十五「キログラメートル」の仕事に對應するを以て、勞力に應じて熱を消費する量益々大となる、これを補ふは重に脂肪と、炭水化物（砂糖澱粉類）なり、其內體溫の重なる原因をなすは脂肪にして、勞力の源となるは炭水化物なり、其必要なる量は、脂肪一日六十瓦、炭水化物約五百瓦位ゐなりとす、此の他吾人の體中には無機鹽を含む、例へば骨格は七十瓦の鹽類を有し、其の內の九割は燐酸石灰よりなる、其他血液肉等の內にも諸種の鹽類を含む。

以上說く所の、水、蛋白質、脂肪、炭水化物、鹽類の五ツは、吾人の身體を保存するに缺ぐべからざるものなれば、吾人の食物は此の五者を適當に調和したるものならざるべからず、而してこの調和したる食物を名づけて保健食物と稱し、此の保健食物の計算は、兵營、學校に於て重要なるのみならず、實に國民衞生の上に重大なる關係を有す、而して保健食物の成分を參考して、味ひよき食物を調理するは、これを一に調理術に依賴せざる可からず、一々實例を擧げて保健食物と對比するは興味多きことあり、保健食物は平均の結果を參酌し、標準を與ふるに過ぎざれば、各個の場合により、適當の加減をなすを必用とす、例へば腦力を多く使用するものは、蛋白質を比較的多量にとり、專ら勞力を要するものは、炭水化物を多く要するが如し、寒國の人脂肪を嗜み、農夫の米のみを食して身體鐵石の如き、これにより自ら其理を悟るべし、かの妄りに多くの鷄卵を鵜呑みにして得々たるもの、其の愚や及ぶべからず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉評議員會　評議員會例會は今後第二水曜日に開くととなれり本月分の日取は左の如し

六月十三日(第二水曜日)午後二時

◉理事顧問會　理事顧問會例會は今後第一水曜日に開會するととなれり本月分の日取は左の如し

六月六日(第一水曜日)午後二時

◉總裁閑院宮妃殿下　京都支部總會及石川支部總會に御臨場の爲め五月廿二日東京御出發五月廿五日京都支部總會に御臨場廿七日京都御出發廿八日石川支部總會に御臨場廿九日御出發翌三十日御歸京相成りたり

◉會長　公爵夫人岩倉久子氏　京都及大阪支部總會に臨場の爲め去る五月廿一日東京出發廿九日歸京せり

◉理事前公爵夫人近衛貞子氏　石川支部總會に會長代理として臨場の爲め去る五月廿六日東京出發卅日歸京せり

◉評議員東郷鐵子氏　京都及大阪支部總會に臨場の爲め去る五月廿一日東京出發廿九日歸京せり

◉評議員奥村五百子氏　京都及石川支部總會に臨場の爲め去る五月廿一日東京出發京都石川兩支部に臨み殿下を奉送後石川支部に一日間滯在卅日大阪支部に出張同地を遊説し夫れより山形縣に出張する都合なり

◉愛國婦人會第五回總會

本會第五回總會は去月二十日紫雲棚引く新宿植物御苑内に於て開かれたり今其狀況を記さんに當日は天氣清朗なりしかば午前十時の開門を待たずして會員の集まるもの數千人開門となるや門前數丁に渉り列をなして待ち設けたる群集は潮の如く入場し十二時頃には既に一万餘人を容れ開會時までには二万の會員集合したり斯の如き空前の盛況なれば流石に廣き庭園も到る所人ならざるなく贈品係の場所の如き最も混雜するを見受けたり式場としては御苑の南に位せる間口六十六間奥行廿七間坪數千七百八十二坪の大建物を借用したる事なれば如何に多くの會員來集すもと是を容るゝに容易なるべしと思ひ居りしに二万の會員詰掛けたる事とて滿場立錐の餘地なく遲れたるものは式場に入るを得ず場外各所に夫れ〳〵佇立して鳳輦の御通過を拜するの有樣なりし

午後一時半豫て仰出されたる如く皇后陛下には玉顏いと麗はしく前驅の騎兵勇ましく皇后旗を飜へして御苑に龍車を軋らせ給ふ會長、理事、監事、顧問は御門前に奉迎し又陛下には便殿に御休憩中監事以上の役員諸氏に拜謁を賜はりたり是れより先き式場には閑院宮殿下並に總裁閑院宮妃殿下を始め有栖川宮妃殿下、東伏見宮妃殿下、伏見若宮妃殿下御先着あらせられ第二喇叭にて皇后陛下の式場に臨御を報ずるや各殿下始め會長以下の役員凱旋門まで奉迎せられ君が代の奏樂につれ陛下には總裁殿下の御先導にて式場に臨御あらせられ岩倉會長は階前に進み恭しく左の開會の辭を朗讀せり

本日畏くも皇后陛下の御親臨を仰ぎ奉り此佳麗幽邃なる御苑内に於て本會第五回總會を開催するは洵に光榮の極にして會員の名譽何物か之に加へん顧みるに前年總會の開會は日露の戰局方に酣なるの時なりき今や妖氛散じて全く平和の克復を見るを得たるも大戰の後を承けし遺族癈兵の情况は慘憺又慘憺殆ど見聞に忍びざるものあるなり陛下至慈至仁夙に之が慰安救恤の事を御軫念あらせられあほけなくも本會が戰時の活動を御嘉稱遊ばさるゝに至る會員たるもの感激恐懼の情に堪へざると共に本會責任の益々重きを覺ふるなり久子不敏と雖ども滿場會員と協力事に從ひ愈々進て會旨の普及と之が實行とを努め以て陛下の懿旨に副ひ奉らんことを期せずんばあるべからず聊か微衷を披陳し謹んで以て開會の辭に代ふ

明治三十九年五月二十日

愛國婦人會長　岩倉久子

次に陛下は玉音朗に左の令詞を賜ふ

本日愛國婦人會の總會に臨み各員を見るを喜ぶ將來益々本會の盛大ならん事を望む

總裁殿下御前に進み令詞を拜受し恭しく左の奉答文を御朗讀遊ばされたり

本日愛國婦人會第五回總會を開くに方り畏くも陛下の親臨を辱ふし優渥なる令旨を賜ひ曩には明治三十七八年の時局本會の事業に對し特に懇篤なる恩旨を拜戴す本會の光榮何ものか之に加へん比年會運隆盛に赴き將に微功を奏せんとするは至仁至慈なる陛下が深く癈兵遺族救護の事に軫念あらせらるゝ所にして感激の至りに堪へざるなり智惠子等鞠躬盡瘁以て陛下の懿旨に副ひ奉らんことを期す謹て奉答す

明治三十九年五月二十日

愛國婦人會總裁　閑院宮妃　智惠子

次に總裁殿下には階段を降らせられ特別徽章及び有功章御親授の式あり岩倉公爵夫人總代として之を拜受し殿下は御登壇あり受領者一同恭しく敬禮して之に全く式を終へ陛下には直ちに還御仰出され奉送の各員に御會釋あり凱旋門より御馬車にて御還啓あらせられたり時に午後三時三十分なりき夫れより同一式場に於て行はれたる東京支部第一回總會に殿下方一同御台臨あらせられ(別項支部總會記事參照)終つて御少憩の後食堂に入らせられ正面に閑院宮殿下、同妃殿下、東伏見宮妃殿下、伏見若宮妃殿下、同妃殿下御着席あり有栖川宮妃殿下には食堂に入らせられずして御歸館あらせられ一同着席の上岩倉會長は各宮殿下に御挨拶を申上げ次に來賓一同に向ひ總裁殿下の思召により宴を賜ふ旨を述べ奏樂裡に宴を開き一同靜肅に宴に侍り四時三十分頃各宮殿下御退場仰出され御馬車を食堂の傍に回し之に召されて御歸館あらせられたり會員は御苑内を拜觀し一同退散せしは午後五時半頃なりし尚ほ當日有功章を受領したるは左の諸氏なり

▲特別徽章受領者

功績	會長	公爵夫人	岩倉久子
	評議員	男爵夫人	千家俊子
	同		仁杉歌子
	同		奥村五百子
	山口支部長		渡邊るい子
	同顧問		渡邊融
	石川支部長		村上須磨子
	同顧問		村上義雄
	山形支部顧問		田中貴道
	岡山支部長		檜垣まさ子
	同顧問		檜垣直右
	熊本支部長		江木中子
	同顧問		江木千之
	靜岡支部長		李家賓實子
	同顧問		李家隆介
	京都支部長		大森船子
	同顧問		大森鍾一
	群馬支部長		吉見悦子
	同顧問		吉見輝
	愛知支部長		深野次子
	同顧問		深野一三
	兵庫支部長		服部鈴子
	同顧問		服部一三
	長崎支部顧問		荒川義太郎
	東京支部幹事		渡邊源子

▲一等有功章受領者

功績	理事	前公爵夫人	近衛貞子
同	同	侯爵夫人	大山捨松
外二十八人			

▲二等有功章受領者

功績	監事	公爵夫人	九條惠子
同	評議員	伯爵夫人	板垣絹子
外四十九人			

▲三等有功章受領者

功績	評議員		伊澤千世子
外三十八人			
寄附		男爵夫人	有地捨子
外七人			

◉東京支部第壹回總會

愛國婦人會東京支部第一回總會は去月二十日別項所載の如く新宿御苑に於て本部總會に引續きて擧行せり、總裁殿下を始め閑院宮殿下各宮妃殿下御台臨の上支部顧問千家知事開會の辭を陳べ次に總裁殿下より左の御諭旨を賜はり

愛國婦人會東京支部は會運漸く振興し爰に其第一回總會を開くに方り諸氏と親しく相見るは智惠子の大に喜ぶ所なり今や戰役の後を承け本會の責任彌々重く事業の前途尚遼遠なり會員諸氏一層奮勵して同心協力以て斯會の目的を達せられんことを望む

明治三十九年五月二十日

愛國婦人會總裁　閑院宮妃　智惠子

次に支部長千家俊子氏謹て左の答辭を朗讀し

本日玆に愛國婦人會東京支部第一回總會を開くに方り畏くも總裁殿下の御臺臨を辱ふし優渥なる御諭旨を賜はる當支部の光榮何ものか之に加へむ自今職員と共に益々奮勵し努めて會務の擴張を圖り以て御諭旨に副ひ奉らんことを期す謹て奉答す

明治三十九年五月二十日

愛國婦人會東京支部長　男爵夫人　千家俊子

次に故海軍中佐佐伯閑氏未亡人澄子氏遺族總代として陸軍步兵二等卒北村佐助氏癈兵總代として特別賜金を拜受して式を了へたるが當日賜金を賜はりたる遺族癈兵數は壹千八百六十三人なりき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎京都支部第五回總會

愛國婦人會京都支部第五回總會は豫報の如く去月廿五日午前九時より御苑内博覽會場に於て擧行せられたり開會に先ち來り會するもの三千餘名に及びぬ、總裁殿下には御用掛鍋島榮子氏を隨へ御料の馬車を軋らせて御臨場先着の會長岩倉久子、評議員東鄕鐵子、鍋島侯爵夫妻、奧村五百子、支部長大森鈴子氏外職員の御出迎を受けさせられ後館御休憩所に入らせられ御先着の村雲日榮尼公と暫時御對話あり夫れより大森支部長の御先導にて式場に成らせられ支部副長中山笑子氏開會の辭を朗讀し次に大森支部長は三十七八年戰役に關し本會に賜はりたる御令旨を拜讀し、次に總裁殿下より左の御諭旨を賜はる

愛國婦人會京都支部は明治三十四年創立以來會運彌々振興し茲に其の第五回總會を開くに方り諸氏と親しく相見るは智惠子の深く喜ぶ所なり

今や戰役の後を受け本會の責任彌々重く事業の前途尙ほ遼遠なり會員諸氏一層奮勵して同心協力以て斯會の目的を達せられんことを望む

次に大森支部長左の如く奉答す

愛國婦人會京都支部第五回總會を開くに當り總裁宮殿下の台臨を辱くし殊に優渥なる御諭旨を賜はりしは誠に光榮とするところなり我が支部の開戰以來頻に發展して今日に至りしものは總裁殿下の恒に懇篤なる御諭旨に因れる效果にして我等感激に堪へざる所なり

今や戰雲已に收るといへども本會の目的たる事業は此より更に大なるものあらんとす我等會員は相共に勵精協同以て會務を擴張し今日の光榮に背かざることを期すべし謹みて答辭を奉る

次に岩倉會長左の祝辭を朗讀せり

日露の戰役は曠古の大捷を以て其局を結べり然して廢兵遺族救護の事彌々急なりこれ豈に本會が大に活動すべきの秋ならずや此時に當り愛國婦人會京都支部には辱なくも總裁殿下の台臨を仰ぎ奉り其第五回總會の式を擧げらるゝは久子の會員諸君と共に大に慶賀する所なり冀くば諸君彌々奮つて殿下の台旨を奉體し本會事業の發展に努め以て戰後奉公の誠を竭されんことを茲に一言を述べて祝詞となす

夫より河島末菊子（一等）吉村たね、高山德三郎、西村七兵衞（二等）鄕光子外三十九名（三等、總代可尻鑑子）に對し殿下より親しく有功章を授けられ尙遺族、廢兵總代故三好陸軍步兵少佐未亡人陸子、廢兵總代步兵上等兵勳八等伊富貴石松に對し特賜金御親授あり次に三井通子外百六十五名（總代中山笑子）に對し支部長より紀念品を授與し右にて式を終り奏樂の間に殿下御退場、續て各員順次退場し式後は中堂に於て音樂及び娘仕舞萬歲踊等の餘興あり又前館前には舞臺を設けて六齊念佛あり遺族廢兵は後園にて餅團子蕎麥等の接待を受け殿下には御休憩所より遙に此有樣を覽はせられ御機嫌殊の外麗はしく拜觀せり尙ほ當日賜金を拜受したる遺族廢兵數は九百九十六人なりき

◎大阪支部第壹回總會

愛國婦人會大阪支部第一回總會は豫記の如く去月二十八日正午より府立博物場に於て開會したり式場たる百疊敷は正面一段高く舞臺を据へ時花を生けたる大花瓶は側面の金屛に映じて神々しく總裁殿下御名代岩倉公爵夫人は東鄕評議員高崎支部長と共に臨場幹事土居よし子氏開會の辭を朗讀し次に支部長は明治三十七八年戰役に關し本會へ賜りたる令旨を奉讀し終て御名代は左の御諭旨を奉讀されたり

愛國婦人會大阪支部は會員漸く增加し會務亦整ひ茲に其一回總會を擧行するに及べるは智惠子の大に喜ぶ所なり

今や戰役の後を受け本會の責任愈重く事業の前途尙遼遠なり會員諸子一層督勵して同心協力以て斯會の目的を遂せられんことを望む

右に對し支部長は左の答辭を奉れり

本支部第一回の總會を開くに當り總裁宮殿下御諭旨を賜る支部の光榮之に過ぐるはなし

惟ふに遺族廢兵の救護は今後益その要を見んとす故に支部は本會の趣旨を體し各役員の熱心と會員の幇助と大方諸氏の贊同とを得て愈會務の擴張を圖らんことを期す謹て奉答す

次に會長岩倉久子氏は會長の資格を以て左の祝詞を朗讀せり

我愛國婦人會大阪支部は地久節の佳節を卜し茲に其第一回總會の式を擧げらる久子此盛會に臨み來會の諸君と相見るを得る何の喜か之に如かん惟ふに日露戰役は曠古の大捷を以て其局を結び帝國の武威大に宣揚せられたりと雖も從軍將卒の死傷も亦實に多く今や廢兵遺族の救護の事最も急を告ぐ是れ方に本會の活動を要するの秋なり切に望む來會の諸氏愈奮て本會事業の發展に努め總裁殿下の台旨に副ひ奉る所あらんことを一言以て祝辭となす

次に支部顧問高崎知事支部役員總代幹事吉田美代子氏の祝辭朗讀あり終て三木主事會計及び事務の報告をなし次に有田シユウ河盛久子の二氏に三等有功章の親授あり次に岩倉會長は殿下より遺族廢兵へ下賜の特別賜金を交附し遺族總代として岩尾たま子廢兵總代として道安芳太郎氏之れを拜受し右にて式を終へたるは午後一時四十分なりしが夫れより一同紀念の撮影をなしたり尙ほ餘興には舞踏、淨瑠璃、二輪加、筑前琵琶、劍舞等あり汁粉、蕎麥等の模擬店あり來會者六千餘名嬉々洋々として庭内を散策する光景豫想以外の盛會なりき又た當日の重なる來賓は各郡區長、馬淵川田兩大佐、岩崎幼年學校長、市府名譽職員、新聞社員等にして賜金を拜受したる遺族廢兵數は壹千三百七十人なり

◎石川支部第壹回總會

愛國婦人會石川支部第一回總會は既記の如く去月二十八日兼六公園前田侯用地に於て擧行せられたり來會者六千餘人、總裁殿下には支部長村上須磨子氏の御先導にて御臨場會長代理近衞貞子、理事鍋島榮子、評議員奧村五百子、支部副長高安翠子、鍋島侯爵、大島師團長、村上知事是れに陪列し村上支部長開會の辭を陳べ次に顧問村上知事卅七八年戰役に關し本會へ賜はりたる御令旨を奉讀し次に總裁殿下より左の御諭旨を賜はれり

愛國婦人會石川支部は率先會員の增加を謀り會務漸く整ひ爰に其の第一回總會を開くに至れるは智惠子の深く喜ぶ所なり

今や戰役の後を承け本會の責任彌々重く事業の前途尙遼遠なり會員諸氏一層奮勵して同心協力以て斯會の目的を達せられんことを望む

御諭旨は村上支部長是を奉戴し更に謹んで左の答辭を朗讀せり

愛國婦人會石川支部は畏くも總裁殿下の臺臨を辱うし爰に第一回總會を開くを得且特に優渥なる御諭旨を賜りたるは當支部無上の光榮とする所なり抑も當支部今日の盛運を觀るに至りたるは偏に總裁殿下御盛德の致す所にして須磨子感激の至りに堪へず自今益々同心協力會務の擴張を圖り以て御諭旨に副はんことを期す茲に謹て答辭を奉る

次で高安副長は會務幷に會計報告をなすべきの處ろ便宜是を印刷に付して各員へ頒ちたれば茲に略せんとすと述べ終りて理事近衞貞子氏は岩倉會長に代りて左の祝詞を朗讀せり

愛國婦人會石川支部は茲に總裁殿下の臺臨を仰ぎ奉り其第一回總會の式を擧ぐ洵に慶賀すべき所なり抑も日露戰役に當りて出征軍人の國に殉するもの實に多數なりき就中當支部下出身の將卒は彼の難攻不落と唱へられたる旅順要塞攻擊の衝に當り爲に死傷するもの最も多く廢兵遺族悲慘の狀言ふに忍びざるものありと會員諸君にありては彌々奮起し以て之れが救護の實を擧げられんことを是れ久子の特に深く希望する所なり聊か所思を述べて祝詞となす

次に村上顧問の祝辭朗讀あり次に一等有功章を支部副長長寬子氏外六名へ二等有功章を評議員大島貞子氏外拾名へ三等有功章を支部副長阿南豐子氏外二百二名へ御親授あり次に廢兵總代步兵中尉服部菊太郎遺族總代故步兵中佐廣中俊寬氏未亡人爲子氏に對して特別賜金あり君ヶ代の吹奏中に閉會を告げたり、尙ほ當日賜金を拜受したる遺族廢兵は壹千九百三十人なり

◎軍艦陪觀　本部總會來會者は海軍省に於て軍艦の觀覽を許されたる去月廿三日橫須賀軍港に停泊中の朝日艦を觀覽せり當日來會者約千人にして鎭守府に於ては上村司令長官幷に其令夫人始め海軍將校の夫人三十四人出席し會員に對し斡旋の勞を採られたれば來會者は深く滿足せり

◎後樂園の拜觀　去月廿一廿二の兩日會員の拜觀を許されたり初日は千九百名二日目は二千三百名の多きに達せり兩日とも評議員及幹事出席し茶菓の饗應を爲したり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

お池の園遊會

江戸　靜川

或る夕暮のことでありました、蓮の植ッたお池の中で、蛙が會主になッて園遊會が開かれました、澤山の蛙が傘のやうな大きな蓮の葉の上に乘かッて、ク、クウ、クヽクウと啼き立てますと、夫りやこそ樂隊が始まッたと云ふので、このお池の中に棲むで居る緋鯉や、蜘蛛や、水馬なんどが吾れ先にと集ッてまゐりました、すると大きな蛙が一段高い蓮の葉に乘かッて、行儀よく兩手を支いて。

蛙『皆さん能くお出て下さいました、この園遊會は實は晝間開きたかッたのでありましたが、晝間開くと御邸の坊ッちやま達が見物に來られて、竹竿で叩いたり石を投げたりして邪魔をされますので、夫れでこの夕暮と云ふことに極めたのであります、夜分になりますと、螢君の厚意に依ッて蓮の葉に電氣燈を點けることになッて居りますから、何うか御悠らお遊びなすッて下さい。』

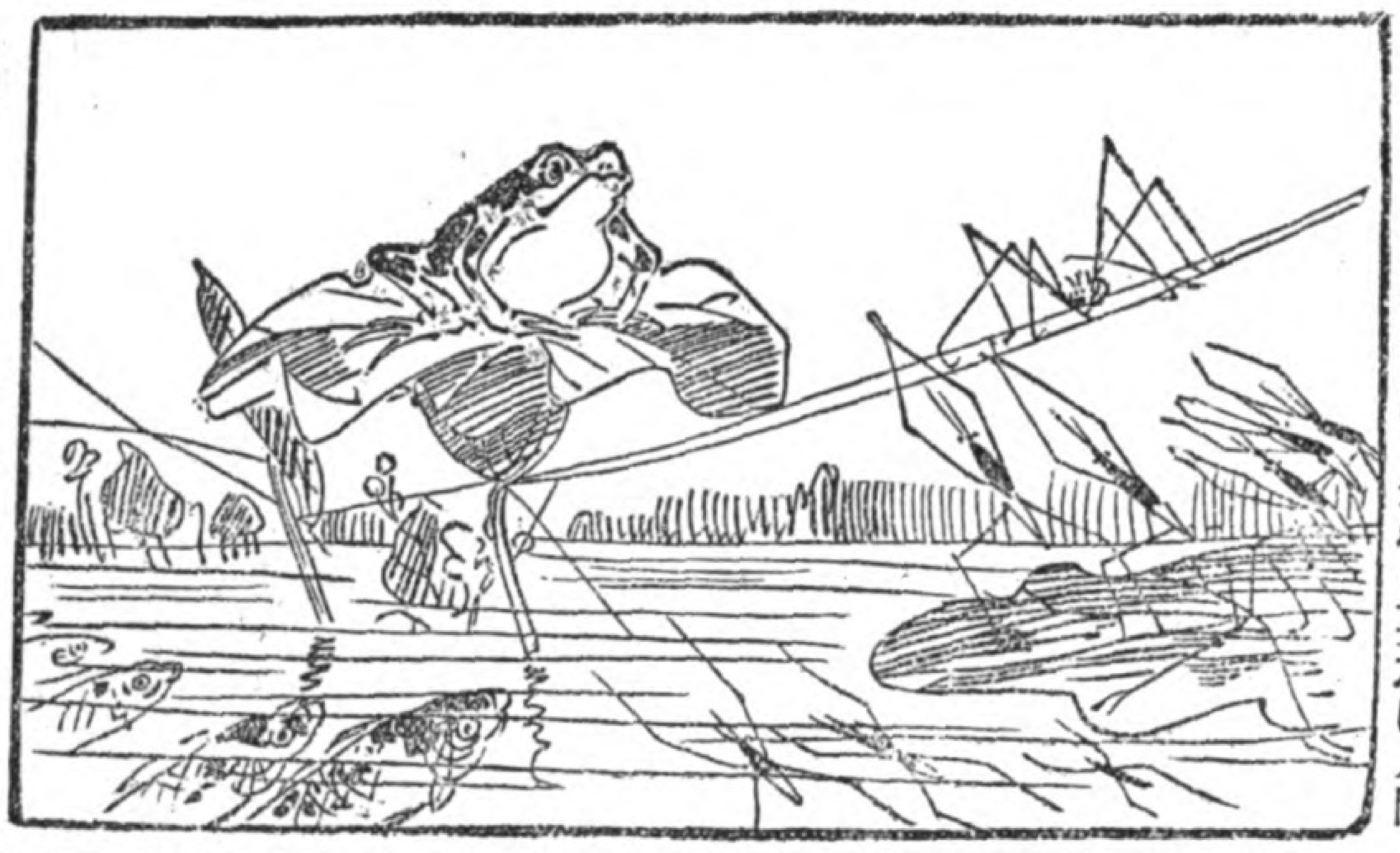
と挨拶を陳べますと、また蛙の樂隊が始まります、緋鯉は園遊會の催しがあると云ふので、晝間お孃さんから頂いた麩を貯藏ッて置いて持ッて來たのを食べます、蛙や蜘蛛は飛むで來る小さい蟲を取ッて、皆ンなお甘さうに食べます。

蜘蛛『蛙さん貴方は樂隊もお上手ならお行儀もよく、實にお羨ましいですな。』と蜘蛛が話しかける。

蛙『何う致しまして、人間に云はせますと、私を歌詠みだの私の啼き聲は皷の音がするなんて申しますが、什麽に私は上等なものではありません。』

蜘蛛『夫れでも人間に賞讃られりや結構ぢやありませんか。』

蛙『所が人間は得手勝手なもので、私を歌詠みだの皷をうつやうな啼き聲をするだのと云ッて賞讃て呉れるかと思ふと、ジイ〳〵ギヤア〳〵啼いて、人間の午睡の邪魔をする蟬なんどゝ同一にして、蛙鳴蟬噪なんて喧しい騷々しいものにもしますよ、夫れから見ると貴方なんどは豪いと思ひますよ、吉備大臣と云ふ人が唐土へお使に行ッた時に、六ケ敷い詩の讀み方を敎へたと云ふではありませんか。』



蜘蛛『さうです、さう云ふと大層私は學者のやうに聞へますが、夫れも要之は人間の拵いたことで、什麽に賞讃て呉れるかと思ふと、白縫姫に使はれて妖術を遣ッたり、大江山の芝居で土蜘蛛なんて惡いものにもされます。』

蛙『私も天竺德兵衞なんかに使はれて妖術を遣らされますが、私の親類に彼な、芝居に出るやうな大きなものはありません、人間は嘘吐きですよ。』

蜘蛛『眞實にネ、アハヽヽヽ。』

と笑ッて居ります所へ、緋鯉がゆたりゆたりと泳いて來まして

鯉『大層面白さうですネ、私も仲間へ入れて下さい。』と云ふと

蛙『さア〳〵入らッしやい、今私達の身の上話をして居たとこなんですよ、時に貴方は瀧でも登る、出世魚ぢやと云ッて男の子のお節句には大層持てますネ。』と話し上手な蛙が話しかける

鯉『何うして〳〵さう云ッて賞讃て呉れるのは宜しいが、五月の鯉の吹流しなんて云ッて、膓のない嘘吐きぢやと申します。』

蜘蛛『人間は嘘吐きの癖に、貴方を嘘吐きだッて、得手勝手な、酷いことを云ふもんですネ。』

と話して居るうちに日が暮れて、所處ら一面の蓮の葉には、螢が電氣燈を點けて夫れは〳〵奇麗になりました。

水馬『何うです、實に奇麗ぢやありませんか、人間の拵いた裝飾電燈は點けッぱなしだが、螢君の裝飾電燈は彼地や此地へ飛むで行つて點くから奇麗、人間業では出來ねこッてすネ。』

蛙『時に何うです、電氣燈も點いたからそろ〳〵餘興に取りかゝらうではありませんか。』

鯉『左樣々々、所で私は一番終いに遣らせて貰います、私が輕氣球になつて刎ね上ッて御覽に入れるのを合圖に、開散と云ふことに願います。』

蜘蛛『贊成々々、夫れでは先づ會主の蛙さんからお始めなすッて、話に聞いてる行列でも遣ッて見せて下さい。』

蛙『其の行列は私の御先祖が京へ上ると云つて一遍遣ッて失策ッたことがありますから、何うか私は樂隊の方で御勘辨を願いたいものですネ。』

鯉『夫れぢやまア水馬君から始め給へ。』

と云ふので、蛙の樂隊につれて水馬がアノ細い線金のやうな足で、ブイ、ブイと水の上を自由自在に飛むで歩きます、夫れが濟むと今度は蜘蛛が、蓮の葉と葉の間へ絹糸のやうな綱を張り渡して、綱渡りやら種々の藝をして見せます、其の身の輕いことゝ云ッたら、淺草の青木の玉乘でするよか今一倍輕くて面白いので、蜘蛛君萬歳々々と云ッて皆ンなが囃し立てます、蜘蛛の藝が濟むと今度は愈々緋鯉の番で、是れが濟むとモウこの樂しい今夜の園遊會がお終いになるのかと、皆ンな殘り惜しさうにして見て居ります、すると緋鯉は尾や鰭を整いまして、仕損じの儀は幾重にも御容赦と自分で口上を云ッて、ばちやア――と云ふ水音と共に一間許り刎ね上りましたが、直ぐどぶ――んと云つてお池の中へ落ちました。何にしろ二尺もあらうと云ふ大きな鯉が放れ業を遣ッたんですから、お池の中へ落ちると大きな浪が起ちますので、水馬は吃驚らして水の上を奔ッて遁げます、蓮の葉がユラ〳〵するので蛙はお池の中へ飛び込む、蜘蛛は葉の下へ隱れる、螢は電氣燈を一ッ宛持ッて、闇の中をお星樣を散らしたやうに飛むで行きました。

蟻の軍勢（上）

三島霜川

あの、小ッぽけな奴に、軍勢だなぞといふ大袈裟のものがありませうか。ところがある、から不思議！　全體蟻といふ蟲は、大勢寄ッて、一ッの世界を作ッてゐます。根が至ッて辛抱強い、勇氣のある、そして智慧のある蟲ですから、その爲ることが面白い、皆さんも蟻の爲ることを度々御覽になッたでせう。體こそ小さいが、蟻は自分の體丈の鐵を引つ張ッて行きます。皆さんは、皆さんの體丈の鐵が引ッ張られますか。先づ蟻が、蜻蛉とか、蝶とか、蠅とか、もう少し大きな物になると、蛙とか、蜂とかの死骸を見付けたとして御覽なさい。蟻は、この大きな物を、えんやらやッと擔いで行きます。或は引ッ張ッて行きます。若し一匹の力で敵はなかッたら、仲間の者を呼集めて來て巢へ運ぶのでございます、幾ら時間が費らうが、幾ら難儀があらうが、そんな事に頓着しません。何處でも突拔く勢です。こんな氣性を有ッてゐる蟲ですから、何うかすると、すばらしい事業を行り遂げます、何しろ團結力――、つまり大勢心を合はせて、一ッの目的を爲遂げる氣風がありますから、何十萬、何百萬といふ蟻が、蟻の軍勢を組織して敵を攻擊することがある。

蟻の敵は何かと謂ひますと、全て地上の動物――象にしろ、熊にしろ、虎にしろ、蛇にしろ、蛙にしろ、皆敵でございます。この大きな、この澤山な敵を扣えて、あの小ッぽけな蟲が立ッて行かなければならないのですから、隨分と骨の折れることゝ思はなければなりません。

蟻には、城があります。何處の國の蟻でも城を有ッてゐます。城とは、巢のことですが、取分け日本の蟻は、冬の間籠城して決して外へ出ません。また何處の國の蟻でも、雨の降る日、または風の強く吹く日は、働きに出掛けません。人だッて、城に籠る時には、澤山の兵糧を用意して置かなければなりますまい。蟻だッて然うでございます。兵糧がなくッては、何うして籠城してゐることが出來ませう。どんな動物でも、動物は、喰べる物が無くッては死んで了ひます。ところが、蟻ば、永い冬の間籠城してゐても少しも困らない。喰べる物が充分にあるのでございます。何うして有るのでございませう。

それは、皆さんが夏のうちに、蟻が、どんな働をするかといふことを御覽なすッたらお解りになりませう。夏の天氣の好い日に、蟻がせッせと働いてゐるのは、冬の籠城または雨が降ッて外へ出て喰べ物を取ることの出來ない時の用意なのでございます。つまり彼等は城の中へ喰物を充分に貯ッて置くのでございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國文壇

故郷の春

浦月子

東より北に、北より西に打ちかこひたる山の中懷、石の築垣高う廻りて、南に海を見渡したるは我が故郷の住居なり、浦こぐ舟の梶の音遙にきこえて、港田遠く霞み渡り、麥生のみどりやゝ深うなりまさりて、紅の毛氈布きたらんやうなる蓮華草、すずな、すずしろの咲き亂れたるなど、とり／＼に美くしく、中らを流るゝ細谷川、末わづかに廣う成りて海にそゝぐあたり、堤の上を行く人も、さすがに畫のさまなり、家の廻りには幾年をへにけむ、杉檜などの物ふりたるがこゝかしこに殘りて、篁には日ねもす鶯の聲も絶えせず、少し東の方によりて、南にむきたる山際に、本の幹は朽ちて芽ばえたる枝さへぞ苔むしたる、いつの世の種ともわかぬ山櫻の一本あり、この十年ばかり前つかたより根やさしけん、程近きあたりに若木の生ひいでゝ、春にはもれぬ花の盛りぞいとめでたき、彌生半ば彼岸といふ頃にはいつもまヾ盛りにて、吹くとなき風のかをり又なくいひしらず、花の大きなるがたぐひまれにて、薄紅のほのぼのと打ちひたる、さし上る朝日に、静けき夕霞に、麓行きかふ山かつも立ちもどほりてかへり見がちなる、げにもと覺ゆるや、この花の盛りのまこそ風なあれぞ、雨なふりぞと心を碎くもをかし、絶て櫻のなかりせばとは誰がいひけん、實に樂しきにも苦はありけるものよ、心にかけておき出てたる曉、打ちしらみたる月影微かになりたるに、あやしきまで庭の白う見ゆるは、早ちり初めし花吹雪にこそありけれ、あはれと見し程日ねもすちりつもりて見せばやと、またれし人も折にはあはて、折しもあはただしく雨風のといはれけむをさへ思ひ合はされし、都には花の名所も春のあはれも盡しがたきを、折にふれ、時にあひて、猶古郷ぞ戀しきや。

短文

題「故郷の山水」

▲峻嶺急流　山形　阿部さゐ子

上れば下る高瀬舟、清き流の最上川は我里の北を流れて洋々たる青海にそゝぐ、庄内富士の名もしるき鳥海の山は北境の雲上に聳えて四時雪を頂く、うら／＼と出る旭に峰の白雪は紅梅の色にそめなされ、[illegible]／＼と紫色にかはり行く樣ぞくしとも美し、日はやう／＼傾き、はや西海の波路の末に落かゝりて今を名殘と射出す餘光に、水上に浮べる稻舟、時ならぬ黄金の花を粧へば、東に名高き月のみ山、夏の日も消ゆる事なき白雪の峰より月はさし上りて、南に立てる金峰母狩の山々を照し、三急流の一とうたはるゝ最上の川の早瀬にうつりて猶一層の光を放つ、あゝ美しの故郷の山水。

▲選者日　北日本の名山名流指呼の中に見るが如し

▲幻影　岡山　武田須磨子

無慘なる運命の手に、憧れし藝術の花の香を散され、淡々しき理想の影みごとに打消されたる身には、なか／＼に都會の生活も華やかならで、杜鵑血に叫ぶ首夏の曉、蟲聲露に咽ぶ晩秋の夕、感思を雲に寄せて染み／＼と故郷を偲ぶ時、思出多き野山の景色は畫の如くひろごりぬ、陽炎燃ゆる春の日、早蕨折りし丘の畔、せゝらぎゆるう流るゝは、笹舟の昔懷かしき里の小川、幽かに水の私語も聞ゆやう、身は平和の光りに包まれて、果しもなく幻の影を追ひぬ。

▲選者日　一篇の詩【】

▲詩材　埼玉　森田竹子

後は續く山又山、綠色濃き松の木の間に春は床しき櫻の花も見へつ、前は見渡す限り田甫遠く連れり、山と田との間には大なる用水ありて、堤上には左側に柳の並木あり、右側は芒一面に生ひ繁る、夏は螢狩によく、秋は月見に好し、早苗植え終れば、蒼々たる田の面に夕餉の煙たなびく彼方に二つ三つもれくる火影など堤上より見下す樣の美しさ、詩材はかゝる處より出づらん、或は野菊の優しき姿を寫せる清き小川のせゝらぎに、鄙歌唄ふ馬子の聲の遙に聞えくるなんど、故郷の山水の何時とて懷しからざるはなし。

▲選者日　美しの眺め哉

▲海頭漁村　東京　濱田直子

千秋の翠を飾る千島八十島、何れ綠の蔭美しく倒に波を染め、遙かの海上には風を孕むだ眞帆片帆、扨は歟乃面白き漁船が滑るが如く港へ入つて來る、左手の大高森は沖の方遠くさし出て、富山に登つて見渡すと、亂碁のさまなして島々が一目に集つて來る、夫れからズット遙かに海中に突出て居るのは有名な金華山、ともまた繰り展げ見る故山の地圖、あゝ懷しい故郷、戀しい我家、つい其處の右手に見ゆる竹ヶ浦のさゝやかなる流れをひかへて、明暮、懷しい／＼我ホームはあるのである。

▲選者日　才筆

▲名山名流　群馬　伏島たき子

高からねども登れば赤城、榛名、妙義の山々も、立ちのぼる淺間の煙も、さては廣漠たる平野に一筋の白銀をひきのべたるが如き利根の流も、一目に見渡さるゝ山の麓は、これわが故郷、小川の水は山田にひきいれてなほあまりあり、終日野に山にいたづく吾等、一日の業をへて此の流に手をも、足をも、心をも洗ひて家に歸るを常とせり。

▲選者日　小仙郷とや云はまし

阿部さゐ子

▲月桂冠　大阪　富水才子

霞こめたる生駒山、浪しづかなるちぬの海、またしても故里の空のみなつかしう思はるれど、いかでいかで我志のなるまでは歸るべきぞ、譽れある月桂冠をいただきて歸りてこそ、山も水も人もゑみて迎ふるならめ、ただいたづらにふるさと戀しとて立ちかへりなば、萬物皆な冷笑の眼を我にそゝがん、あゝ勉めん哉／＼、つとめてはげみて故郷へかざる錦の機を一日もはやく織りあげなむと、ひたすらにいそしみ給へるは、東都にゐます我友なり。

▲選者日　他人の事にしたるは口惜し

募集　新體詩

花桐

埼玉　森田竹子

眺めも美しき初夏の
夕風渡るおばしまに
彈づる琴の手を止て
父なき身をば喞つゝ
眼には何時か露宿り
憂ひに沈む少女あり
折しも垣の外面には
くさ刈る少女佇みて
高き塀際見望げつゝ
黄金のなきを喞けり
垣の内外に乙女子が
おもひは二つ父と金
うたゝ想ひに迷ふ時
悟れとやうに桐の花
香りて落ぬ二ッ三ッ
香りて落ぬ二ッ三ッ

白百合

東京　濱田直子

夕べ天降の天津女が
白衣の御袖さとゆれて
下界におちし玉露に
生れ出てけん白山百合
美しき姿と高き香に
德とみさほを守りつゝ
塵の世遠く離れたる
くしき谷間に咲き出て
けがれし人に聖き詩
示さん、とてぞ佇める

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○鹽かまのけふりの末はかな文字にかきけされたるゑはかきのおも　岡山　武田須磨子

○うるはしき君か言葉にゑはかきのふしのたかねもはえまさりけり　埼玉　森田竹子

○雨の宵さはにあつめしゑはかきのしなさためしてあそふ樂しさ　青森　佐藤楓子

○色香さへふかくこもりて玉章もにほふあやめの花のゑはかき　函館　神尾登女子

○めくまれし友の情もふかみ草にほひゆかしき花のゑはかき　東京　鈴木菊子

○おもふとち送りかはせるゑはかきに心の花の香やこもるらん　東京　瓜生保子

○うくろ手も嬉しかりけりゑはかきの花におとらぬ友の言のは　東京　岡田春子

○言のはのたちはぬふしは手すさみのこのゑはかきに見そなはせ君　群馬　伏島たき子

○山里にゐませる友に送らはや浪花の春の花のゑはかき　大阪　富永才子

○ゑはかきにものいはしめて月花のつかひもからぬ世となりにけり　北海道　四久子

○つゝみなき人の心をうつしゑのはかきのおもにかくそ嬉しき　山口　國佐春子

○言の葉のかすゝくなきもうつしゑのその眞心はこもるなりけり　愛知　市橋幾子

○友かきの心をこめしゑはかきは嬉しきものゝひとつなりけり　東京　小島幹子

○うちひさす都のさまもひとひらのふみのたよりに見る世なりけり　山口　末田貞節子

○ひとひらは後のかたみに殘さまし勝し軍をいはふゑはかき　埼玉　加藤美代子

○うるはしき花の姿のゑはかきを心こめておくる玉つさ　青森　鈴木安子

○なか〳〵にふみにもまして嬉しきは友のものせしゑはかきにこそ　京都　磯谷澤子

○海山の景色をのせてひとひらのふみもちさとのたよりをそする　山口　末田竹子

○壯夫のたかきいさをの鏡とも傳へのこさんゑはかきのふみ　静岡　萩原さだ子

○美はしきやまとをとめのゑはかきに心をこめし絲そ嬉しき　石川　新田暉子

○うつくしき姿うつしてゑはかきは外國までも通ふ御代かな　青森　田島正子

○日の本の國の光をゑはかきにうつしてそしる四方の國人　東京　三宅ひさ子

○まのあたり見るこゝちして嬉しきはなれし都をうつすゑはかき　茨城　福田喜代子

○名所の四季のなかめも居なからに文のたつきにみるそたのしき　山口　荒瀬千勢子

○言の葉につくせぬさまをゑはかきにゆつりつふみをかきちゝめけり　徳島　渭津みれ子

○みいくさの勝ちしるしもうつされて後のかたみに殘るゑはかき　愛知　平松いと子

○なか〳〵にゆかしかりけりゑはかきに君か言の葉そへしけれは　兵庫　乾　榮子

○めつらしき所のさまはゑはかきにまつしのふかな友のおきふし　東京　長鹽錠子

○色も香も筆にうつせしゑはかきにゆかしき友の心みえけり　函館　佐多益子

○我ひとりみるにかぬ景色をはうつして友におくるゑはかき　岡山　貝原壽惠子

○かちいくさ譽れをなかく後の世のかたみにせんとのこすゑはかき　東京　金澤收子

○筆ひとつそめねとかたるゑはかきにうつす都の春の景色は　東京　小島ます子

○都にすむ身はゑはかきを見るにさへ都の方そ戀しかりける　岡山　陶浪龜惠子

○都人ふみなれまさぬみやまちを見せまつらはやゑはかきにたに　長野　高橋きよ子

○こその春みくにの爲にうせたまふ友のかたみやゑはかきのふみ　廣島　竹入勇子

武田須磨子筆蹟

○氣も晴るゝこゝちこそすれゑはかきに都の名所ゐなからに見て　兵庫　下岡松枝子

○山さとに都のさまをしらせはやかきやる文のうまう寫しゑ　静岡　青木緋子

○ひとひらの紙にのせつゝ富士の根をくろ〳〵しくもはこふけふかな　静岡　小池きく子

○兄上のいくさはなしそしのはるゝこのゑはかきを見るにつけても　岡山　谷とめ子

○めくまれし友のゑはかき手にとれは日ころのうさもはれにける哉　山梨　芦澤鐸子

○さま〳〵にすきをこらして世の人の心もうはになれるゑはかき　東京　槇なつ子

○ものゝふも命をしますすゝみけんちるゑはかきの花をなかめて　山口　右守朝香子

○美くしきこの玉章につれ〳〵のうさもいつしか打わすれけり　京都　清水いま子

○我友のめくみしなくは名所もしらてやすきんひなにすむみは　山形　阿部さゐ子

天　石橋や五尺ゆら〳〵藤の花　東京　川村誠子

地　旅人の心からむや藤の花　愛知　市橋幾子

人　讀みさしの双紙に藤の栞かな　東京　大澤幸子

街道や藤を名にする立場茶屋　東京　鈴木芳枝子
樓門の扉とざせり藤のはな　東京　野中雄子
手枕に見し心地のよし藤の花　東京　押田琴子
小原女の肩にかけゝり藤の花　京都　磯谷澤子
高ぶらぬ色に咲きたり藤の花　大阪　富永才子
藤の花さいてにぎはふ龍寺　石川　新田暉子
舞殿の顔にかゝれり藤の花　山形　阿部さゐ子
手折りても簪にならず藤の花　京都　渡邊いれ子
棚かけたやうに咲けり谷の藤　廣島　小田八重子
深張りに押分け見たる藤花散　三重　山内せい子
落つ露に紫にほふふぢのはな　神戸　乾　榮子
地藏尊着替へしてけり藤衣　岡山　仲田磯子
藤浪の花さかりなり大欅　埼玉　桑田竹子
さはる手に趣かへて藤の花　三重　莊司積子
岩角に瀧音もれて藤の花　京都　清水いま子
風なよか長く靡けり藤の花　東京　黒川順子
水の面に波もゆかりの藤の花　京都　難波夏久子
風そへば龍ののぼるや下り藤　徳島　渭津みれ子
岩角を押へて見るや藤のはな　福島　永山喜代子
木の間より流も見へて藤の花　熊本　齋藤さき子
藤棚や紫雲たなびく美くしさ　群馬　代島たき子
藤め花谷をまたげて向ふ山　廣島　小田信子

金蘭簿　貳の卷

石川縣石川郡美川町一二七の一　新田暉子
愛知縣幡豆郡平坂町　石川類子
静岡市七間町五丁目壹番地　萩原さだ子
東京市麻布區材木町二十五番地　西村露子
青森縣三戸郡三戸町字八日町　鈴木安子
熊本市中坪井町七拾七番地　日高可壽子
北海道函館區相生町五拾三番地　神尾登女子
長野縣下伊那郡根羽村高等小學校　金野やほえ
埼玉縣北足立郡中丸村　加藤美代子
岡山縣都窪郡萬壽村字平田五八三　貝原すゑ子
京都市烏丸一條上ル、山本家　金澤收子
三重縣北牟婁郡赤羽村島原三戸　諸戸常子
岩手縣盛岡市、鐵道官舎内　山口萬壽子
茨城縣行方郡麻生町　福田喜代子
鳥取縣日野郡根雨村　近藤靜子
千葉縣東葛飾郡我孫子町　小熊たま子
横濱市尾上町四ノ五九、長谷川方　木村みち子
山口縣吉敷郡吉敷村　末田貞節子

第十三回作歌募集
題　夏の月
選者　某公爵夫人
規定　繪葉書に認むる事
優等の作歌は七月五日發行の本紙上にて披露すべし

第廿三回短文募集
題　夏の夕
選者　編輯局同人
規定　一行十八字詰十五行以下
優等の作は七月五日發行の本紙上にて披露すべし

第十一回俳句募集
題　七夕
選者　編輯局同人
規定　用紙葉書
優等の句は七月五日發行の本紙上にて披露すべし

第四回新體詩募集
題　寒
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの
優等の作は七月五日發行の本紙上にて披露すべし

締切六月二十日限り

廣告

旭りんご酒の名譽

全國知名の醫學者間に於て組織せられたる日本聯合醫學會が昨月大會を東京に催せられたる故本品の批評を學者間に乞はんと寄贈せしに豫想外の好評を蒙り多大の名譽を荷ひし上不圖も重ねて左の賞賛狀を送られたり此段御愛飲者諸賢に謹告仕候

前略曩に本學會開催候際同懇親會へ宛て貴社醸造の林檎酒御寄贈被下候段鳴謝之至に候該酒は品質純良にして原料の風味を存し殊に「アルコール」分の少量なるは日常の飲料として至極佳適なるものとの衆評有之候是れ貴社前途の爲め甚だ賀すべき次第に候就ては尚益御熱誠を以て長く此賞賛を御占有相成候樣只管所禱候先は不取敢右御禮迄如斯候不宣

明治三十九年四月廿日
第二回日本聯合醫學會
會頭
醫學博士　北里柴三郎
三宅島物産株式會社御中

醸造元は旭いちご酒を昨年發賣なしたる東京日本橋人形町通り蠣殼町三宅島物産株式會社（長電話浪花六百二十番）

帝都唯一受賞袴
小町印
學生袴
御部　日本橋區
彌生町
永井本店
電話浪花一八四一番
小賣部
神田南神保町
永井支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

北米合衆國紐育市
シンガー裁縫機械會社
東京支店　東京銀座三丁目拾貳番地
大阪支店　大阪心齋橋筋二丁目五拾六番地
長崎支店　長崎大工町六番地
東京支店名古屋監督店　名古屋玉屋町九十六番

洋服、足袋、シャツ靴商等に非常の信用を博したるシンガーミシンは今や家庭の第一要具として全國の婦人に歡迎せられつゝあり而して我社は前記四店の外に全國の都市に六十有餘の出張所を有し又ミシン專門の裁縫を敎授の爲に東京、大阪、横濱等の各市にシンガーミシン裁縫女學院を設立し東京の如きは生徒數增加して今や三階造りの一大校舍を新築中なり、一たび我社の學校を參觀せらるゝの婦人は如何にシンガーミシンの家庭に必要なるかを知らるゝならむ、定價表目錄等御申込次第進呈す

ミシン專門裁縫夏期講習會
開期八月一日ヨリ一ヶ月間
（規則書進呈、郵券封入御申込アレ）
東京麴町區有樂町三丁目壹番地
シンガーミシン裁縫女學院
大阪東區北濱一丁目六番地
シンガーミシン裁縫女學校

胃病良藥
太田胃散

從四位淺田宗伯先生直傳
淺田飴
だんせきに
あさだあめ
淺田飴
すきはらにめし
空腹にめし

良藥にして口に甘し
定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　錢拾錢
本品全國到る處の藥店に販賣す
本家　東京神田鍛冶町　大阪北久寶寺町　堀内伊太郎

奧村五百子刀自滿州軍慰問紀念
▲婦人の慰問使
定價拾錢　郵稅不要
發行所　東京九段下牛ヶ淵公園　愛國婦人發行所

東京市日本橋區新右衛門町
第一生命保險相互會社
電話　本局一三七三　本局一七三七

▲世界のしんぶん▼

▲昆虫類　は世界中に大抵二十四万種ありといふ其内の或るものは頗る小さきものにて四千匹を集めて漸く小さき砂粒位の大きさとなるものありといふ

▲人命の必要品　はいふ迄もなく空氣なるが人は五分間空氣なければ死し、全く眠らぬ時は十日にて死し、又水を飲まぬ事壹週間にて死し、食物に至りては境遇次第にて人命を保つ度合は異れりといふ

▲印度の寡婦　印度には幼女の結婚するもの頗る多く一度夫を失ふ時は再び他に嫁する事出來ざるなりと今全國政府の最近の調査によれば一才より三才迄の幼女にて寡婦となれるもの大凡一万九千人ありとぞ、全體にては二千五百萬人の寡婦印度にある割合なりと云ふ

▲富有の乞食　羅馬の都にて敎會にて貰ひ歩きたる一人の乞食此程死去したるに驚くべし其遺産金參拾七万圓に達し、遺言書には三人の子供に此金を分つべしと記しありたりと更に可笑しきは此三人の子供は父が斯程の金持なりとは知らざりしといふ

▲電氣燈　は眼の爲めよろしき由此程瑞國の醫師の發見せしといふ眼は瞬きする度數多き程疲るゝ事多きものなりと、今仝醫師の試驗によるに眼の瞬きする度數は一分間每に蠟燭の光にて六度と三分、瓦斯の光にて二度八分、太陽の光中にて二度と二分なるに、電氣燈の光中にて一度八分なりといふ

▲各國民の飲料　は其國々によりて異れるが、英國は茶を用ふる事多く北米合衆國にてはコーヒーを飲む事夥しく獨逸はビールを用ゆる事他に比類なく露國は酒精類を最多く用ひ佛國にては葡萄酒を用ゆる事世界一なりといふ

▲ラヂュームの力　新元素ラヂュームはエレクトロンと稱する一種の力を有するものにて此元素が此力を有する事は夥しき事にてダイナマイトの有する力よりも百万倍の力ありといふヨヘネスブルグといふ處の學者ダーウインの調査によれば重さ貮百七十萬貫のものを地上十四町ばかり引き上る力は七匁許のラヂューム中に含まれありといふ又六千哩（一哩は我凡そ十六町位）の航路を十五哩の速力にて一万二千噸の船を走らす程の力は百五十匁程のラヂュームに含まれある割合なりといふ

▲人の年齢　は大抵定りあるものにて或る統計學者の調査によるに男女共二十五才に達せるもの二人に付一人は必ず六十五才迄生存する筈なりといふ

▲星と交通　目下英國ランカシャー洲にて紡績所より製する糸の長さは一日に一億五千五百哩になるが、此の速力にて月に達する糸を作るには僅かに二十分餘にて充分なり、又六間の製糸にて地球を一週する事を得べく、十八日の糸の長さにて太陽より海王星に達すべく、一年を三百十日働くものとして最近き恒星に達する糸を紡ぐには大抵五百年間を要すべしといふ

▲無線電信　の効用は多くあれど近頃最も有用なるは寒中氷塊の多きを船[illegible]に警告する事なり例へば獨逸のカイゼル、ウイルヘルム號大西洋中に航海せし時に[illegible]哩も離れたる處にあるチュートニック號よりの無線電信によりて或る場所に氷山夥多ある由知らせ其後程なく又々他の地方に氷山ある由の報知に接したりといふ

▲人命救助の豚　或る處にて漁船の難破せしものありしが船長の機轉にて積荷なりし豚を綱にて捕り海に投げ入れたるに其豚は間もなく海岸に泳ぎつきたれば難船上と[illegible]交通を得て一人も殘らず救はれたりと

▲大洋の水量　或る地理學者の說に地上の海の水悉く汲み干されて後地上の凡ての河水を注ぎて目下の高さに水を入るゝには大凡四万年を要すと

▲人間の手先　には八分四方につき大凡二千五百の毛穴あり、手足全體の毛穴を繋ぎ合す時は其長さ約二里に達すべしといふ。

高等かみ油
ピース油
（香氣）（性良）
●定價　大瓶入五十錢　小瓶入三十錢
ピース油は白き油とは違ひ我國婦女子の嗜好に適する樣に多年の經驗によりて製造せるものなり故に一度つければ永日髮の毛のねばりかたまる事なく毛の色を黑くし艶を出し又毛の折り切れる事更になし
各洋物店小間物店にあり
東京日本橋區榑正町
發賣元
前田久昌堂

中瓶
壹本拾五錢

二八水は進步せし化粧水の隨一なり
効能は世間已に定評あり
花王石鹸本舗
東京馬喰町
長瀨富郎製品

消化新藥
工學博士高峰讓吉氏に由て發見せられたる有名なる胃腸新藥タカヂアスターゼは粉末錠劑水劑の數種として各藥店に販賣せらる
[illegible]多あり必ずタカヂアスターゼ名稱及弊店名義に乞御注意
[illegible]本劑に關する說明書は御申越次第贈呈す

東京市南茅場町二番地
三共商店藥品部

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

◉外務大臣親任　去月十九日午後一時半、宮中に於て左の如く親任式を行はせられたり

特命全權大使正三位勳一等　子爵　林董
任外務大臣

内閣總理大臣兼外務大臣　侯爵　西園寺公望
免兼官

◉陸軍大將新任式　去月二十九日午前左の通り親任ありたり

陸軍中將從三位勳一等功三級男爵　大島久直
任陸軍大將
同　立見尚文
同　大迫尚敏

◉御歌所長へ恩賜　御歌所長高崎正風男の祝壽饗は去月二十七日午後一時より新宿御苑内に於て催されたるが發起者徳大寺侍從長田中宮内大臣を始め男爵の薫陶を受けたる高貴の男女多數參集して古式を參酌したる極めて莊重の式を擧行したり、男爵が久しく兩陛下の御製御歌を拜し奉りて深き御信任を忝うするは何人も知る處なるが皇室に於かせられては此度の壽筵を殊の外悦ばせ給ひ兩陛下及皇太子殿下より蒔繪文臺硯箱、金二百圓、御菓子、銀製花盛器、菊御紋三組銀盃等を御下賜あり尚皇后陛下皇太子殿下を始め奉り常宮周宮富美宮泰宮内親王殿下有栖川宮同妃殿下北白川宮大妃其の各殿下よりも祝賀の玉詠を賜はりたり其中皇后陛下と皇太子殿下の御詠を記し奉れば

皇后陛下御歌

ことのはのみちの高根はこえたれと
よはひは千代の山くちにして

皇太子殿下御歌

ことのはの道をきはむる身にしあれは
千代のよはひのはてもなからむ

と拜さるゝ、此他各宮殿下の御詠何れも老男爵の齡永しへに長かれと諾はせ給はぬはなし文を愛し臣を愛し給ふ皇室の思召の長さは申すに及ばず老男爵の光榮に欽羨に堪へたりと云ふべし

◉留學女學生の獎學金　麹町區五番町十六女子英學塾内に事務所を置き相當の學資を給して米國へ留學させんと目下その志望者を募集中なる此獎學會は米國有志婦人の好意により日本女學生の爲に特に設けたるものにて其目的は將來日本の婦人の高等教育を普及せしめんとの主旨に外ならず、今少しく此獎學金の出來たる所以と獎學金を支給する方法とを記さんに、前記英學塾の塾長津田梅子氏が曩に米國へ留學して明治廿四年の秋歸朝せんとするに際し彼地の有志婦人の同情を得て約一萬弗の寄附金を受け、その利子にて日本の女學生を米國合衆國フィラデルフィヤ又は其近傍の大學に留學せしむる手筈を定めて歸朝したるが此獎學金の出來たる次第にて、翌廿五年初めて此趣旨を各地の高等女學校程度の學校に廣告し普ねく候補者を募りたる處思ひの外に申込者少なく僅かに五六名に過ぎざりしが、試驗の結果横濱フィルス女學校の卒業生松田道子が其選に當り其年の夏渡米して先づ二ヶ年間大學の入學試驗に應ずべき豫備科として佛語、獨逸語、及び其他の學科を修めたる後ブリンマー女子大學に入りて歴史文學を研究して六年目に歸朝し現に京都同志社大學の教授を勤め居れり、次に三十一年に募集したる際には申込者七名の中に北海道札幌の北星女學校卒業生河合道子が其選に當り同じくブリンマー女子大學に入りて歴史文學を研究し六年目に歸朝して現に女子高等師範學校の囑托教授と女子英學塾の教師とを勤め居れり、次にまた卅五年に募集したる際には申込者十名の中にて華族女學校の卒業生鈴木歌子が選拔されて同大學の選科に入り今年の夏は卒業して歸朝する豫定となり居れり、されば今回の募集は第四回目にて申込期限は來月十五日迄なるが申込者の資格は十七歳以上卅年以下の獨身者にして高等女學校卒業程度の學力さへあらば試驗に應ずることを得べく選拔された上は年々五百弗乃至六百弗の學費を支給され卒業して歸朝したる後も彼の官費給與生の如く職務上の義務も責任もなくたゞ日本の女子高等教育の普及さへはからば夫れにて立派な義務が果さるゝ由なれば、學資がなくて海外留學を希ふ女學生達には此上もなき好都合ならずや、願書其他の手續及び細則等は前記女子英學塾内の獎學金事務所へ照會すれば詳かにすることを得べし

◉清國女學生と日本美術　清國女學生と云へば今までは下田歌子氏の實踐女學校に二十五名ある外他の女學校には僅に一二名を數ふるに過ぎざりしか此度牛込市ケ谷なる女子美術學校に一時に九名の入學生を見るに至れり、九名とは

黃華（二十七才）湖南　陳韻馨（二十六才）浙江
黃典（二十七才）湖南　蔡少娟（二十才）浙江
朱英（二十三才）徽州　蔣若萱（二十三才）徽州
胡蘊莊（二十二才）甘肅　鳳貞（十九才）長沙
余過申（二十六才）江蘇

等にて何れも裁縫、造花、編物等を專攻し居る中に單り胡蘊莊許りは日本畫を專攻し居りいづれも夫あり中には母となり居るも三名ありて朱英は妊娠の爲め昨今休學中、黃華、余過申の兩女は能く日本語が出來る爲に自然通譯の任を務め居るが尚ほ隨意科として數學もあり昨今は西洋數學の教授を擧りて漸く加へ算に入りたりと云ふ智識の程度は我國の尋常二年ぐらゐの處人の妻となり母となり齢ひ三十に近き身にて適々日本にきたり學ぶ彼等の心懸や殊勝の至りと云ふべし

◉清國派遣女教師養成所　東洋婦人會にては其事業の一端として清國派遣の女教師を養成すべく夫々準備中なりしが昨今路其設備も調ひ入學試驗も結了するに至りたり第一回の入學及第者は十名、生徒の寄宿は女子學院の寄宿舍を、音樂は女子音樂院を、體操場は同會々長鍋島侯爵邸內を何れも借用することに決し其他の授業は同會假事務所に於て開始せり學科は支那語、漢文に重きを置き其外普通學一般を教授し修業年限は一ヶ年半なりと云ふ

◉音樂學校規則改正　東京音樂學校にて甲種師範科官費生募集規程左の如く改正せり

在學中平時に在りては兵役に服すべき者及夫を有する者は入學を許さず

◉東京女醫學校　牛込市ケ谷なる女醫學校は今學期（五月）より頓に生徒數を加へて是まで百三十名なりしが百名の新入生を見るに至りたるより又々校舍、寄宿舍、解剖室其他を新築す可く戰爭の餘波として軍醫の未亡人など新たに入學せりと

◉女子技藝教授所　本會第五回總會の節音樂堂内に掲げたる本紙額面の額縁を調製したる高山菊代氏は東京市牛込區新小川町に於てツマミ細工其他女子の技藝を教授し居れるがツマミ細工は其師少なきとて來り習ふもの多しと尚ほ同所の月謝は金二圓なりと云ふ

◉女子雇員募集　滿十五年以上廿二年以下にて高等小學卒業以上の教育あり東京市内に於て父兄其他相當監督者と同居の女子にして郵便爲替貯金係志願の者は遞信省構内同係管理所に申込可しとなり

◉菓子と小兒病　小兒に與ふべき飲食物の撰擇は殊に心を用ふべき事今更云はでもの事ながら近來の小兒の胃腸病は砂糖製の菓子を食ひ過ぐるより起るもの十中の八九を占むる有樣なれば其由つて來る處を探るに、元來豆類を原料とせる砂糖澤山の羊羹や餡類は小兒の最も好んで食するものにて世間の親達も小兒の菓子は此類に限ると思ひ居れど是れ大なる誤りにて此種の菓子は胃に入りて酸敗し易く乳酸と云ふものを生じて消化器を刺戟し甚だしき害を與ふるものなれば平生此樣な習慣をつけたる小兒は、爲に不治の慢性胃腸病を起し取り返しのつかぬ事になるもの尠なからず、されば小兒には心して此種の砂糖製の菓子を與ふることを廢めビスケットや麵麭などを與ふるを良しとす、是等の菓子は單に消化がよきのみならず滋養も至つて多きものなれば、これから夏季に入りての間食には尤も適當のものなるべし、又果物類も至極結構なれど青梅、青葡萄などの不熟のものを食して却て胃腸の病を招くことあれば之も能々注意して選擇したる上にて與ふるを肝要とす

◉兩殿下御眞影　東京市京橋區南傳馬町一丁目吉川弘文堂にては今回閑院宮同妃殿下の御眞影を箱入り新式拵出し寫眞となし吾が愛國婦人會員に限り實費金壹圓を以て頒つ由、又た栃木縣足利町なる栃木縣工業學校にては兩殿下の御眞影を精巧なる織物となし前同樣本會員に限り實費金貳拾五錢を以て頒つ由なり

廣告

最上醬油　キハク印

於聖路易博覽會名譽大賞牌受領

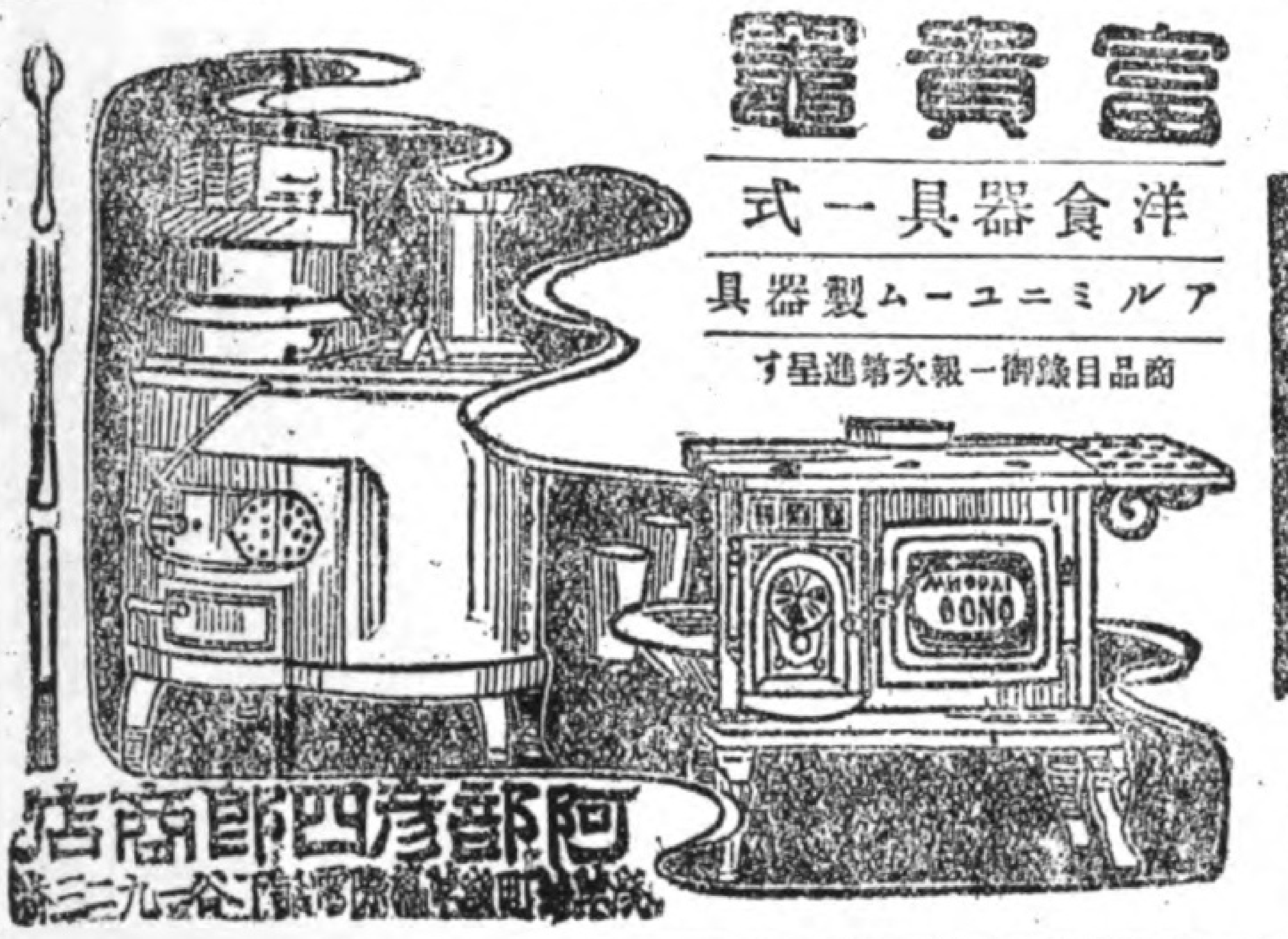
キハク印
醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　電信略號（キハク）又（ハク）

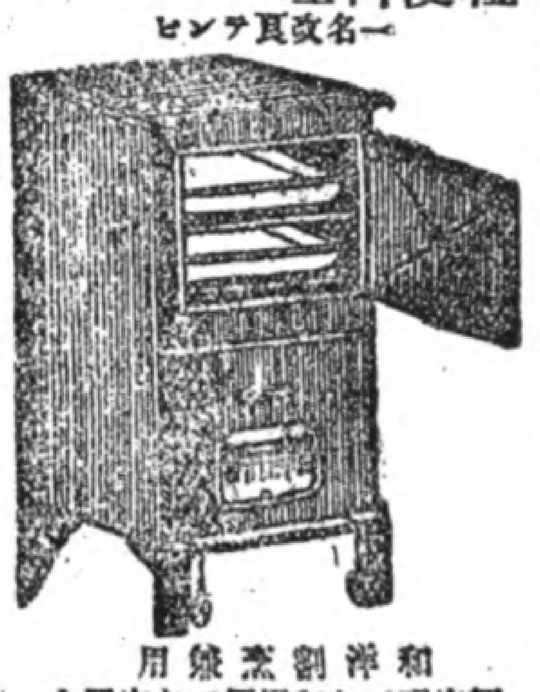
東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寶貴堂
洋食器具一式
アルミニユーム製器具
商品目錄御一報次第進呈す



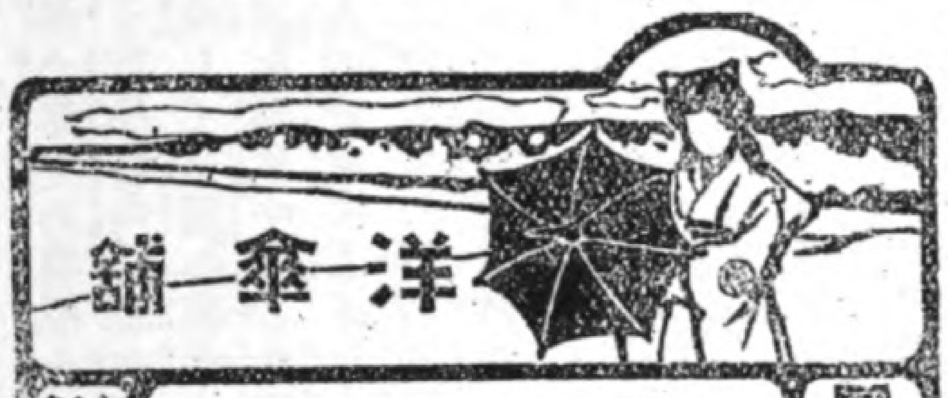
特許 輕便料理ストーブ
一名改良テンピ



和洋割烹兼用
輕便にて料理完全にストーブの効用を爲す和洋料理に用ひて極めて便利頗る妙なり
定價小四拾五圓 大六圓

文學士 下田次郎氏撰
西洋教育家肖像 廿四枚、說明書廿四枚
定價六十錢（郵税共）
發行所 東京市日本橋區本町三丁目 金港堂書籍株式會社

洋傘業交換會員



最新流行形
洋傘ステッキ各種
藤田支店
神田小川町通東明舘西隣
電・本局三二六
本店
下谷池ノ端仲町通
電・下谷一六二六

此の洗粉は米國最新最良特選原料を以て精製したるものなれば皮膚を腐らしむる事なく滑らかにし其色を白くす

新聞の新聞

◉時事新報　實業家未だ眞面目ならずと題して論して曰く今日の時勢は甚だ忙しくして日夕集會盃酒交歡の間に業務の利益を計る如き緩慢の始末は最早や實際許す可からず且從來とても重役の輩が常に外に忙はしくて内の監督は自ら疎漫に付せられたるにも拘らず實務に失態の少きは日本人固有の勇實とも見る可きなり乍併今日の所謂る重役が現角眞面目の氣風を缺ぐは決して實業界の基礎を確實ならしむる所以に非ず假令へ今後に事業振興の氣運を催すも當事者にして眞面目ならざれば外の競爭に對して事業の發達を全うすることは望み少しと云ふ可し

◉東京朝日新聞　ホテル問題との題下に論して曰く近來外人の來遊國を挾し各地方は勿論堂々たる日本帝國の首都に於てさへ之を容るゝに足る可き通常の旅館なきは如何にも不體裁且つ不利益の次第なりとて頻にホテル經營を論ずる者朝野の間に少からず然れどもホテルとは旅館屋の事日本に旅館屋なきにあらず適當の旅舍なきなり外客に對してのみならず内地人に對しても又缺乏を極む故に外客の爲の大ホテルよりも我々の爲の大旅舍が更に必要なり來遊の外人中には二種類あり一は事業の爲め必要上來るもの一は觀光の爲に漫遊し來る者とあり今日は后者のもの其多きを占む故に日本の風俗人情に接し日本人の如何なる者かを見んとするにあれば日本流の旅舍にて可なり只其生活上に困難なりと認むべき部分だけ改良すれば可なり

◉毎日新聞　世界氣運の變化と題して論じて曰く日露の大戰は恰も獨佛戰爭の影響を世界に與へたるが如く其及ぶ所の範圍甚だ廣し異なる所の者は自由對抑制の消長相反する點に在り抑制の大國は立憲の小邦に擊破せられたり敗れたる露國は自由政治の論を開かんとし勝たる小國は立憲の爲めに國民の一致を得たるを證明したり嗚呼氣運は四時の順環するが如し昨英國の自由黨大勝を得佛は英と握手して平和を維持せり時代は擡制主義を厭ふて自由主義の發現となれり日本も今より來らんとするは民權論の勃興ならんか

◉報知新聞　女子の教育と題して論じて曰く家庭に於ても社會に於ても男女は其の天性に從ひて分業し協力すべくして同一の事務の上に競爭せんとすべからず故に高等女學校の教育に至りては中學の教育と大に其趣を異にせざる可からず妙齢の女子をして精神を過勞せしむるは母性機能の發育に害あることは學理と經驗との明證する處なれば女子の教育は高等女學校にて完結するを可とせん女子は兒童を善化し美化するに適すべき家庭を主宰せむために穩健にして調和ある教育を受けざる可からず而し多少の例外あり家に富あり才に餘りある者が社會の表面に奔走し交際場裡に翺翔するも何等の妨げなかるべく殊に賢母良妻なるの修業をつみ其本務を果して餘力を以て男子の業務を助くは立派なる事なり

◉万朝報　「會」の弊端を論じて曰く凡そ「會」は何等かの目的を有する以上は其目的を遂行するを以て其存在の理由となさゞる可からず然るに我國に於ては會を以て一身上の利便を計る機關となし甚しきは全然相反する兩種の會に會員たるものすらあるこれらは可成會費を減し成る可く餘興を多くし出席者の多きを好むの風があるが歐米諸國にありては然らず會員は會費を負擔するを勤めとし集會に何等の快樂を求むるの意なく會の進行は恰も官廳の事務を處理するが如く頗る無味淡泊なり故に一の會を起さんには第一に資金第二に適任者を撰定し永久に其會の性質に應して當初の目的を遂成するを會員の任務とせんことを要す

法學博士和田垣謙三賛助
說明詳細●中學英語研究會編纂●親切無二

質問隨意
最新英語獨修初步
上製答解共全二冊●定價金六十錢●郵税金八錢●
本書は斯學最新の研究法を採り說明最詳細を極めたる獨習書也則ち獨習者の最困難を感ずる發音の說明に最力を用ゐ巧緻なる挿畫約四十個を挿入し直接師に就きて學ぶと大差なからしめ文章は平易なる口語文を用ゐ何人にも會得に便ならしめ初步英語全科を遺憾なく修得せしめんことを期したり

質問隨意
增訂新式英語獨修書
上製答解共全二冊●定價金一圓●郵税金十錢●
此書客年第一版を公にするや英學者の好參考書●最新なる編纂法によれる獨習書●系統的な獨修書●從來無二の獨習書等の好評を得たるもの今回新に書簡文書方其他必須なる新材料を增補し第二改版發賣す幸に乞愛讀
右二書共編者責任を以て會員讀者の質問に答へ作文習字の添削に應ず

發兌　東京市日本橋區本石町三丁目　大阪市東區備後町四丁目　寶文館

FORMALIN SOAP
ホルマリン石鹸
◉殺菌防腐皮膚病一切によろし
◉養蠶家手洗消毒に最もよろし
消毒專用　化粧用　洗濯用
本舗 藥種問屋 圓城商壓
東京市日本橋區本町三丁目七番地
電話本局一四四三番
特別大販賣
東京本銀町三ノ十三
仲德商店

◉夏季は壜詰酒の最優等なる品を撰むべし
◉漫遊旅行者は衛生無害の酒を携帶せよ
芳味 醇良
世界長
壹升入　四合入　貳合入　壹合入
東京日本橋區照降町
高橋商店
電話浪花千五百六十一番
洋酒食料品食器類一式洋菓子ビスケツト舶來香水石鹸其他雜貨勉强販賣市内迅速配達

◉村井弦齋著◉
增補註釋 食道樂 續篇 春の部
定價八十錢 郵税十錢
郵券代用一割增 臺灣淸韓郵税三十錢
發行所 東京麴町區有樂町 報知社出版部
大賣捌所 東京銀座大通新橋際 新橋堂書店　東京神田區表神保町 東京堂書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

好評家庭讀物 高尚

女子文壇

毎月一日發兌 ◉水彩畫繪端書寫眞口繪入 毎號投書懸賞募集
瓊音 小波 信綱 柳浪 醉茗 選評
▲定價壹冊拾錢六冊前金五十七錢送料無料
二卷第八號發行 全誌詩文懸賞滿載に實に隨一の女子文藝雜誌なり
自宅練文 大判百廿頁無類の廉價
河井醉茗君著 山中古洞君畫
●詩と美文 玉蟲 全一冊上製 正價六拾錢
鈴木秋風君著 太田三郎君畫
●小說美文 朝晴 全一冊上製 價四拾五錢
●四版 懸賞文集 全四百廿頁 正價廿五錢
女子新版必讀
女子文學全書 第壹編六月發行 價參拾錢送四錢
●以上の詳告は女子文壇にあり精讀を乞ふ
出版元 東京京橋大鋸町 女子文壇社
大賣捌 東京堂 北隆館 東海堂 上田屋 良明堂
●最寄書店に無くは出版元へ郵送料は不要

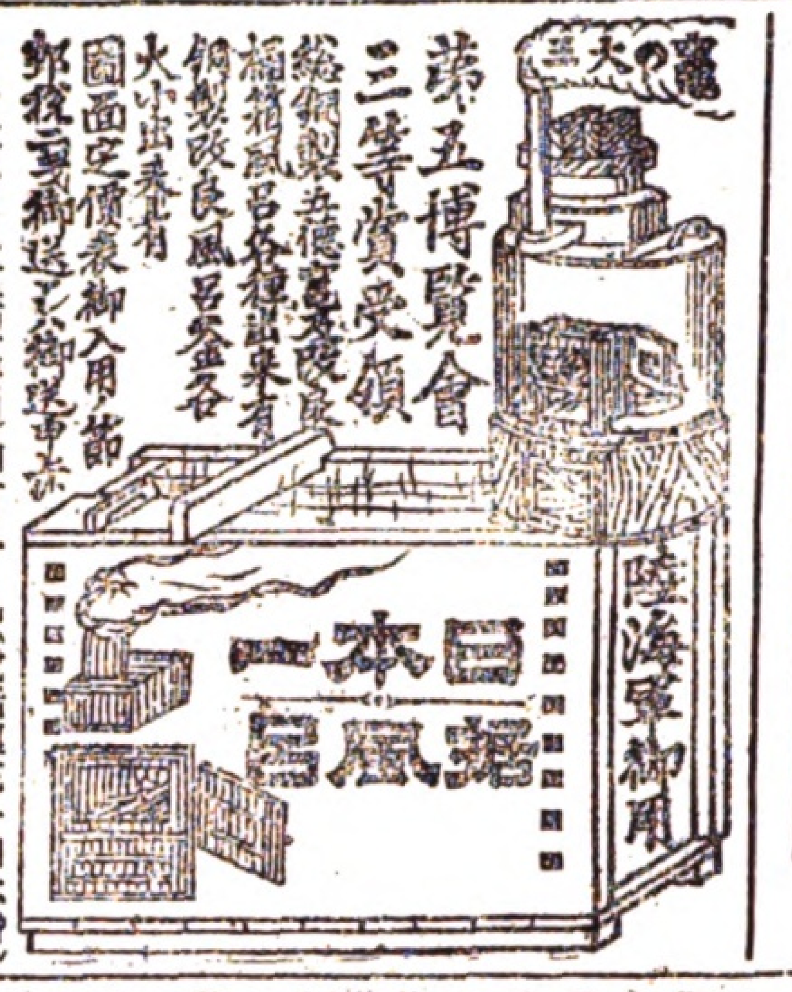
見よ 主婦と母の講義錄 二年卒業

家庭女學講義

▲第一號（四月發行）
●婦人の天職……早稻田大學講師 浮田和民
●初生兒の養育……侍醫 加藤照麿
●出產の準備……同夫人
●家事整理の順序……羽仁もと子
●耳の衞生（上）……ドクトル 山上兼輔
●看護の心得……東京看護婦會長 大關和子
●石炭酸使用法……ドクトル 井上友子
●飯の炊き方……宇山祿子
●味噌汁の拵へ方……宇山祿子
●庖厨器具の整理……宇山祿子
●子供の西洋前掛（裁縫）
▲第二號（五月發行）
●妻の本分……慶應義塾長 鎌田榮吉
●授乳の心得……侍醫 加藤照麿
●幼兒に與ふべき習慣……聖坂母の會長 ミセス、ボールス
●出產時の心得……加藤常子
●家計豫算のたて方……羽仁もと子
●耳の衞生（下）……ドクトル 山上兼輔
●病人の食物……大關和子
●腸チブス看護法……東京看護婦會長 大關和子
●惣菜と香の物（料理）……宇山祿子
●古ホワイシャツの利用（裁縫）

會員募集
▲會員は質問其他の便宜あり▲入會金十錢▲會費一ケ月分僅に十錢▲目下入會の好機▲詳細は六月の家庭之友にあり▲申越次第進呈す
一冊實十二錢 實捌各地書店
發行所 東京麴町區三番町十二番地 家庭女學會

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花四四一二 浪花四五一二番
預金利子
定期預金 六ヶ月 年五分
當坐預金 百圓に付日歩 八厘
別口當坐 同日歩 壹錢
全國送金 無手數料
其他銀行一般の業務は便宜取扱ひ申候


第五博覽會 三等賞受領
總銅製並德利形改良 桶鐵製風呂各種有 銅製改良風呂釜各 大小出來有
圖面定價表御入用節 郵稅二錢御送り御申越
陸海軍御用
製造發賣元 東京日本橋區通油町十九（電話浪花一四六番） 銅器物問屋 南部鐵瓶販賣 石川商店
代理店 京都柳馬場 春井喜助

專賣特許 英字どめ

東髮の時季

Morlds

東髮用保留中英字留の右に出づるものなく留方の自由にして總ての點に於ても愛用諸孃の賞讃高し

雜誌の新聞

◉男女學生交際論　一體人は社交的動物であるから、學生と雖も亦この社交といふことを要求するのは當然である、而して社交にて同性間の交際があると同時に異性間の交際もあるから、この社交慾のために男女學生が相互に交際せんと欲することのあるは事實として認めなければならぬ、併し事實であるから必ず是れを奬勵すべしと云ふ譯ではないが、先づ其の道德的價値を能く考へてからならば決して惡いことではないと思ふ、今日の如く利害得失如何を學生そのものが他に向つて問ひ、又た道德家先生に尤めらるゝが恐ろしいやうなら交際をせぬがよい、要するにして善いか惡いか分らぬやうなことは後廻はしにして絕對的によいことをするのが宜しいと思ふ、學問を勉め、德育に志し、運動を勵むが如き必然してよいことが澤山にあるのである（中央公論六月號、建部文學博士）

◉通學と寄宿と　各々一長一短はありますが、先づ家庭より通學する方の利益を云へば第一愛家思想を養ふことが出來、常に家に居るに依つて家族の必要を悟り家庭の經驗を感じ、家族相互の義務を知り、親子兄弟間の愛情を濃かならしめ、家政經濟を目睹することが出來後日妻として母として家事を整理する場合に少なからぬ利益を感ずるに違ひありません、寄宿の方の利益は、專心學問に從事することを得、起床から就眠、三食、入浴、運動等總て秩序の正しい習慣を養ふの利益がありますが、是れは家庭に於ても規律の正しい家では出來ることでありますから、何方が利益が多いかと云へば、家を愛する觀念も養ひ、家事も覺へ、勉强も出來る通學の方が利益が多いと思ひます、故に寄宿舍に居るものでも、夏季休暇などには家庭に歸へると云ふことが必要であります（ムラサキ六月號、後閑菊野氏）

◉交際科を設けよ　今日の高等女學校程度にては、年齡資格こそ既に結婚の資格もあり、且つ我國の習慣として女子十七八歲になれば、早く結婚を急ぐの風があつて、卒業後直ちに結婚するもあれど、未だ學問、人格に於て、男子と均衡せざる恨あるのみならず社交の智識に至つては全くゼロである、之れを補綴するものは家庭の母の責任なりと云ふ人があるが、今日の家庭の母では固より左樣の敎育は賴むべくもあらず、到底之れも學校敎育に待たざるを得ない、故に應急當面の處置として、先づ四方の女學校に、この交際の一科を設け、新時代の進步を助け、新家庭の悲慘を救ふことが必要である（家庭雜誌六月號、中尾淸太郎氏）

◉强情な妻君の直し方　頑强く說きまくると行き詰つて泣き出しますこれには一番困るのです俗諺にも泣く子と地頭には勝てないと申しますが泣くのは既に心の平安を缺いて居るのですから早くも常識を以て誡ずる事が出來なくなつて居ます結局奧樣が强情で怒り出したら旦那樣は知らぬ顏をして他の業務に取りかゝるか又は其席を外して出て行くが善いすると張合が無い一人で喧嘩は出來ないからちと氣まづく成つて流石に狂者の樣な動で有つたものも程無く沈靜るのです强情の因づて起る原は幼時の敎育が惡いからで就中家庭敎育に關係深く其罪責は全然兩親に懸つて有ると云つて善ひ位ですよしや如何なる天性の事でも其幼時の敎育法如何に依て隨分立派な人格も遺られます（明治の家庭六月號、棚橋絢子氏）

めりんす友禪
東京人形町通り

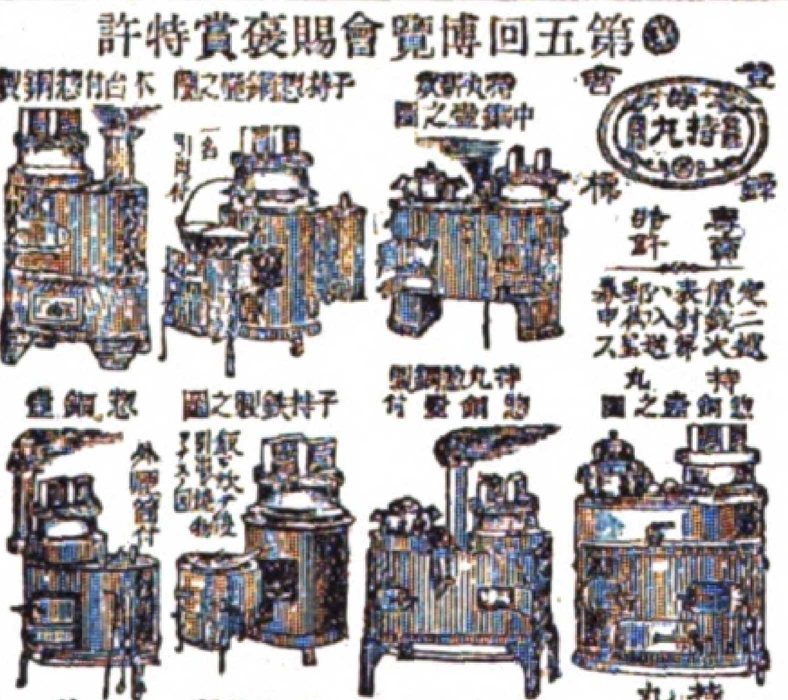
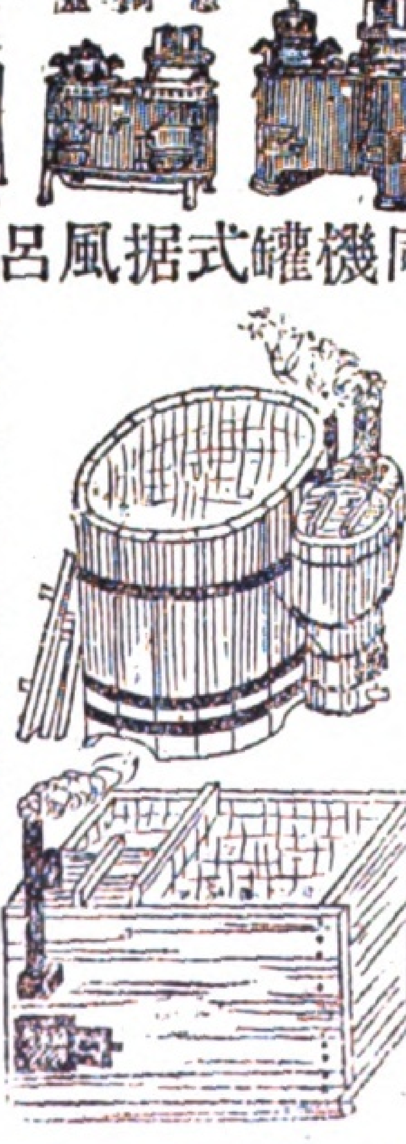
女學通信敎授

●本會は伏見若宮妃殿下を名譽總裁に戴き鍋島侯爵夫人會長として會務を統監す
●小學卒業後進んで高等女學校に入學し難き事情ある女子達は本會の通信敎授に依て家庭に居ながら必須の學科を修められよ
●本會發行の講義錄は高等女學校の科目よりも一層多數の諸學科を網羅し第一流の名家を擇びて講義を囑托せるものなり
●本會は高等簡易の兩科を設け女子素養の程度に應ぜしむ月謝は高等科四拾錢簡易科二十錢とす目下入會に都合よし會則は葉書か電話にて請求あれ（電話番町一二三〇）
東京市麴町區下二番町三七 大日本女學會

（ラクダ印）

（麝香石鹼）
ラクダ印麝香石鹼は高貴なる麝香に愛ずべきミレスの香料を多量に含むが故に使用せば其香氣身体は元より手拭、タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は散都としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す
○定價大形廿錢 小形拾錢 熱心勉强なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり
近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意
東京本石町三丁目十八番地 芳香園問屋 井上太兵衛

●二十世紀の婦人諸姉に告ぐ！
實地活用 柔術極意
通信敎授速成會員募集 本會が永年苦心慘憺の結果案出したる方法に依り三週間にて達人となるを保證す
●規則書郵券二錢送れ
東京市下谷區龍泉寺町 帝國尚武會

◉第五回博覽會賜褒賞特許

◎湯屋溫泉用釜◎料理店理髮店用湯風呂◎豆腐箱
同機罐式据風呂

◉定價表御入用の方は郵券二錢送付あれ
製造 日本橋區蠣殼町二丁目十五番地 名和商店
販賣元 神田區和泉橋通松永町十八番地 名和支店 電話浪花千百七十七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高等香油
チエリーオイル
紳士貴婦人令孃用

本品は無色透明さらくとして水の如く馥郁たる香氣は恰も香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大に流行せる彼の束髪用としては非常に高評を博しつゝあり
定價入十五錢、四十五錢
廿五錢（送料各十錢）
賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり
發賣元　東京日本橋區本町二丁目　高橋初次郎
特電四一二三番

女優マダム
川上貞奴
俳優國みやげ

色を白く艶を出し顔の小皺をのばす西洋薄化粧料洗粉
ヤツコ
●定價一罐廿錢全國送賃四錢三罐美髭齒入五十五錢同送賃十錢（此箱入には四洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる美本を添ゆ）

毛を良くしくせと縮毛を直す東髪島田丸まげとも髪形をよくす
カール
●定價七袋分入廿二錢全國送賃四錢三袋入十二錢一袋入五錢同送賃二錢
東京神田區御成道田代町九番地
ヤツコカール日本一手發賣元
地球堂　田中丹治
●ヤツコ。カールとも全國有名小間物店藥店に賣捌あり若し無くば代價へ送賃を添へ發賣元へ注文すれば急送す

懷中要藥
清心丹

○銀側兩蓋之部　流行薄手形
價八圓半　瑞西不入向爪アンクル
價十圓半　同總石入上向アンクル
價十三圓半　同裏三枚總石入上向爪
價十四圓　米國中蓋付切天武向爪
價十七圓半　米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部　流行薄手形
價三十三圓　瑞西國十八金側御婦人持
價六十九圓　瑞西十八金側中形紳士持
價七十九圓　米國製十八金中形紳士持
價九十五圓　瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓　米國製18金形18紳士持

商品案内
無代進呈
東京市京橋區銀座一丁目
電話新橋（二三三一）
伊勢伊時計店

春夏用ショール
フラネルセル地　見本品ス
旅行用毛布チリ
ヨケ外套車用膝
掛種々其他
洋織物、綿縫物
タツト、敷物類
何なりと御座候

ツカタヤ
東京湯島切通下
電話下谷一三一四

愛國婦人會員諸氏に謹告

閑院陸軍中將宮
愛國婦人會總裁同妃

兩殿下浮出御寫眞

附總裁殿下御令旨

大形八ツ切一組桐箱入實費金壹　圓
愛國婦人會徽章附額大形　一尺五寸七分　金壹　圓
小形キヤビネ形　同　一尺二寸　實費金五拾錢
同　額小形　一尺二寸五分　金五拾錢
郵送料　額入　九寸七分
同　小形金參拾錢　大形金四拾五錢
額ナシ各金拾錢

今回愛國婦人會の許可を得て兩殿下の御眞影を最も精巧なる浮出寫眞に謹製するの光榮を得ました此浮出御眞影は我邦未曾有の斬新なる意匠にて固より他に比類のない物であります御正裝服色幷に御佩用遊さる各種の勳章には金銀色は勿論、青紅色の金屬四過も設きばかりに鏤めありて親しく兩殿下に咫尺し奉るが如く何人も益々崇敬の心起り此御眞影を拜しまゐらするときは禁へず肅然容を正します

閑院中將宮殿下の御勇武にわたらせられ且つ御慈愛に富ませ給ひつるゝと同妃殿下の御賢德にましまして御慈心深くおはしまする事は今新らしく申す迄もなき事かと存ぜられます

同妃殿下には畏くも愛國婦人會を總裁し給へる事とて同會員は朝夕兩殿下の御眞影を拜し

斯く御賢德比なく御慈心世にすぐれさせ給へる其御勇武御賢德を欣仰敬慕すべきであらうと信じます上述致した通りの趣旨で愛國婦人會の許可を得ましたので御座いますから此寫影は愛國婦人會員の外には一切頒たぬ非賣品であります唯だ日露戰役に忠死を遂げられました烈士の遺族諸君中に兩殿下の御勇武御賢德を敬慕し其拜觀を申出でらるゝ向も多きより凱旋大觀兵式幷に靖國神社臨時大勅祭の際忠死者遺族に限り特別を以て之れを頒與する事に致しました所其後今日に至るも尚ほ引續き非常に多數の申込がありますので今ま尚ほ謹製中であります

理事評議員方

愛國婦人會員中の數千名の御申込がありますが多くの會員中には未だ巳に出席されし諸氏よりは過日の總會に出其拜觀手續を知らぬ方がありては誠に遺憾の次第ゆゑ今回廣く御知らせ申して普ねく拜觀の榮を得られたき趣意であります

全國各府縣の同會支部には拜觀に供するため此斬新精巧の浮出御眞影が奉置してありますゆへ兩殿下の御高德を欣仰し拜觀希望の會員諸氏幷に遺族諸君は親しく拜觀の上此際至急御申込ありたし左すれば二日より御申込順に依り直ちに發送致します

申込所

東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地
吉川弘文館
電話本局千九十五番
同　六百九十七番

同市同區銀座二丁目十五番地
大野萬歲館
取次電話新橋八百三十七番

登錄商標

羽おり紐
華しん

市内ハ御用命ノ節ハ電話一報ニテ参上御伺仕候
東京おー町
松竹組糸舖
電話浪花一五一六
定價表ハ御申越シ次第直ニ呈送仕候

◎學校用オルガン、ピアノ、和洋バイオリン

船來手風琴　無師獨奏紙腔琴

◎配用曲譜二百五十餘種出來
●定價大形上製金十五圓七十●同中製金九五圓形金五十五錢●小
定價三十冊錢三圓五十圓錢四圓五圓六圓七圓十錢八圓半圓

西洋(ハーモニカ)横笛

●定價金卅五錢金四十錢五十錢六十錢七十錢一圓十一圓廿一圓五十錢以上

◎大聲蓄音器定價金卅三圓金五十五圓金六十五圓
◎平圓盤發音器定價金卅七圓金五十三圓金八十圓

高等玩具
新荷着
教育的

東京銀座三丁目二番地
十字屋樂器店

補血良劑
ヌポール蕪菁肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適する香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
電話本局特四一九一
電話本局三〇一八

薄地物大賣出し

六月一日より
懸賞圖案を應用したる優等浴衣、帷子地其他都ての薄地もの等種々取揃へ大賣出仕候
見切反物日々澤山取揃へ置き申候
よせきれ

東京日本橋
白木屋　吳服洋服店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大好評

婦人世界

實用專一

六月三日發行　每月一回發行　第六號　一冊十五錢　郵稅一錢五厘　半年分郵稅共九拾錢　一年分一圓七拾五錢

口繪

◎伏見若宮博恭王妃殿下最近の御影　◎ナポレオンの家庭
◎愛國婦人會第五回總會光景（新宿御苑內）
◎名流最近の新婚寫眞　◎彩色石版　◎繪手本（跡見花蹊）

婦人の日常生活法　村井弦齋

▲容色は如何に整ふべきか
▲髮の油は何を用ふべきか
▲髮は如何に洗ふべきか
▲白粉は如何に用ふべきか
▲顏は如何に剃るべきか
▲心は如何に洗ふべきか
▲朝飯は如何に支度すべきか
▲菓物は如何に用ふべきか
▲朝の飲料は何を用ふべきか
▲髮は如何に梳るべきか
▲櫛は如何に用ふべきか
▲フケは如何に取るべきか
▲白粉は何を用ふべきか
▲婦人の美は如何に保つべきか
▲朝飯前は如何に過すべきか
▲朝飯には何が宜きか
▲何の食物が皮膚の色を白くするか
▲牛乳は如何に飲むべきか

右は村井弦齋氏が全國婦人の爲心血を濺いで起草されたる實用的大文字なり

◎娘の結婚に就き母親の心得　矢島楫子
◎田尻博士の家庭　鶴田博士
◎家庭用家具の新形
◎小兒の病氣を知る法　加藤ドクトル
◎子宮內膜炎　伊庭醫學士
◎苺の話　農學士　恩田鐵彌
◎寡婦の鑑　小川房子刀自の面影
◎便利なる襁褓乾燥器
◎婦人と指輪　◎蚊と衞生
◎流行の夏衣（寫眞挿入）
◎女子と體育　井口あぐり
◎花の陰　小說…中村星湖
◎弦齋夫人の苺料理談　苺の天麩羅。苺の葛煮。苺の菓子

發兌元　東京京橋南紺屋町十二番地　實業之日本社　電話新橋八七四番

最上醬油元祖

上

下總銚子町
釀造元　濱口儀兵衛

東京北新堀七番地（電話浪花二五九四）
荷扱所　濱口支店

○宮內省御用達也
○開業二百六十二年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絕す
○日本一の釀造高也

大阪西長堀南通一丁目電特（西二〇〇五）
濱口出張店

英國最新輸入
眞正無類　クイーン白粉
高等香油　クイーンオイル
本舖　東京　三井花陽堂

寶丹容器秤量改正及び包裝一定に改良の稟告

◎大方の諸君益々御淸榮恭賀奉り候隨つて家製寶丹の儀御愛顧を以て日に增隆盛加ふるに海外の諸邦へ輸出頻運に至り特に清韓兩國の如きは近時著しく增進致し拙家の幸慶は申す迄も之れなく聊か御國恩の萬分の一に酬ひ奉り候義と深く感銘罷在候然る處寶丹の原料に便用致し候「雲南麝香」「龍腦」の如きは內地に產出致さず年々騰貴の一方に傾き居り候折柄本年「改正關稅定率法」御發布の決果前記原料に過重の增稅相成原價非常の昂騰を來たし從來の定價金拾錢器を始め總て定價を引上る歟或は容器を小形として從前の定價を存續する歟此二途の外これなく今や戰後の經營として一大發展を期すべきの時に當り此困難に遭遇し熟々考慮仕候處清韓兩國の如き未だ購買力の低き邦土へ輸出すべき品價としては是非共定價拾錢の器を存續し置べき必要これあり止を得ず來る十月十一日より拾錢器を始め總て順次容器を改正いたし候これによりて拾錢器は最も輕量と相成候をもつて當座御便用には相適し候得ども若し救急の御備用に遊ばされ候には多量を要し候に依り貳拾錢器以上の品御用命仰付られ度願上奉り候勿論藥劑の義は從前の通り極めて精撰益々其効驗の顯著ならんことを希圖致候わひだ何卒前條御汲量成下され倍舊の御愛顧を賜はらんことを偏に祈上奉り候也

寶丹本舖　東京市下谷區池之端仲町貳拾七號所有地
十世　守田治兵衛　謹白

◎追伸　拾錢器包裝の儀御携帶及び運輸其の他の便益を主とし來る六月十二日より貳拾錢器以上と同樣の包裝に體裁改良かつ歐文効能書中へ別に登錄商標を赤色に印行し猶主治服方記の裏面をこれ又赤色に印刷いたし候間前條篤と御諒承置願上奉り候再拜

登錄商標

都足袋粹乃友

三越呉服店裁縫所
東京日本橋區室町三丁目
龜屋足袋店
宮內清兵衛
電話本局一七一二番
電信略號（カメヤ）又（カ）

文學士　下田次郎氏述
教育思想の變遷　附教育學研究法
全一冊　定價三十錢
發行所　東京市本郷區森川町一番地　育成會

女子教育
編輯主任　文學士　下田次郎氏
第參卷第六號　六月一日發行　定價拾錢

本邦婦人雜誌中最も程度高く歐米最近の婦人に關する論說を紹介し最も讀み答へあるもの

發行所　東京市神田區錦町四丁目　明治書院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人ちゅうじゃうとう中将湯　藥王

子宮病　血の道　さん前　産後　のぼせ　頭痛　腰足冷込　下腹痛み　月經不順　白血　赤血　其他婦人病　一切の特効藥

定價　壹週分三十錢、二週分五十五錢、三週分八十五錢、四週分壹圓廿錢

東京日本橋區通四丁目
本舖　津村順天堂
支店　大阪堺筋大寶寺町南入

各國帝室及ビ王家御用

ネッスレスミルクフウド

歐洲諸國及本邦名醫ノ讃辭ヲ辱フセル者ナリ、小兒、病者又平素不消化ニ苦ム者ニ適當ナル最良滋養食物ナリ。最モ盛ニ藥舖洋酒食料品店ニ於テ販賣ス

●色白く艶をだす
松澤ボーサン石鹸（大形一個廿錢　小形一個十錢）
◎近頃にせ物多し御買求め節は商標及松澤名義に御注意
◎當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店にて販賣す

東京本石町四丁目
芳香藥種問屋
ムスク香水本舖
松澤常吉

來る一日より五日間六日迄夏季大賣出し
三　夏半ゑり帶揚類　景品進呈
浴衣地　中形小紋大柄絞り縮絽明石紅梅島縮
新別染
本店　ゑり治　新橋竹川町十二　電話新二〇二七
支店　ゑり治　神田表神保町壹　電話本局九五二
出店　ゑり治　新橋際博品館内階下

六月一日より
中形浴衣地新柄陳列會

右は豫て懸賞を以て募集致候中形圖案に依り新たに染上げ候浴衣地の陳列を兼ね盛大に開會仕候間御誘ひ合はされ御來觀被成下候樣偏に奉願上候也

東京日本橋區駿河町
三越吳服店

新學期開始

●會員大募集――目下入會の最好機なり　四月廿四日第一號發行

▲事情があつて高等女學校に入る事の出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の教育を完全に正則に授けます
▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません、本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いようにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を毎號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道專門の大家であつて教育に充分經驗のある方のみです、且つ講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です
▲本會講義錄は右に述べた通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都會一ヶ月の遊學費で優に全期を終はる事ができます

大日本淑女學會
高等女學校程度講義錄發行

批評一班
▲中央新聞評　▲毎日新聞評　▲二六新聞評　▲日々新聞評　▲都新聞評　▲報知新聞評
講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
米國の通信教授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり
高等女學校の全課程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
講義はすべて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり
講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し
講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也
上掲の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲本會規則書▼
端書にて申込あれば直に郵送す可し
◎東京神田南甲賀町
大日本淑女學會
電話本局三千四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町(常盤橋内)
日本興業銀行
電話本局(三、三〇〇番 四一番 (特)三七番 一〇二番)
一定期預金 年五分
一當座預金 日歩七厘
一特別當座預金 日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
特別當座預金 同日歩 壹錢壹厘

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋(三〇〇番 一五三〇番 一九三三番)
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花(一九〇一番 三二七四番 三五〇八番)
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

スコット乳薬
咽喉諸症肺炎其他貧血病ニ著大ノ効驗アリ早ク試賜ヘ
說明書ハ横濱郵便局私書函第五十八號
スコット乳薬部へ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店 横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
◎品質佳良の肉類廉價に販賣候
◎配達は迅速に且つ正確に致候
◎滋養と風味の西洋料理調製候
◎西洋料理出前は格別相働き候
◎米店は精撰の白米廉價販賣候
◎御注文は電話又は葉書で願候
小石川表町 電話番町六五九 西川本店
廿二番地 本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二三七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

袴乃親玉
東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
小賣部
本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店 電話下谷一四一五番
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

金側時計
寶石類貴金屬
美術品
東京市日本橋區通三丁目
大西時計店
電話本局一六八六番

歐米直輸入
貴婦人用
◎クレープシヤツ
◎婦人小兒用帽子
◎上衣キヤンバース
◎洋傘手袋沓下類
◎敷布用タヲル切地
◎精巧舶來人形各種
◎洋花リボンレース
◎旅行用化粧道具
◎外西洋小間物一式
東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與 三枝小賣店
電話新橋三九二七番

産婆
本郷團子坂 井上みよ

醫院案内

産科婦人科專門
診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衞門河岸 電下谷一〇二八番 岩田病院

内科小兒科 特に吸呼器病
麴町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀨元九郎
電話番町八二二番

産科婦人科
東京日本橋區濱町三丁目七番地
楠田病院

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
◎電話下谷七一八番

◎婦人科 ◎小兒科專門
午前宅診 午前往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

産科婦人科專門
ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
二各科 診察從前の通
芝愛宕町 新二六四 同二六二〇
東京病院

神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)
内科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院

東京神田錦町參丁目電本七一五
山口眼科病院
診察午前午後 入院隨時
院長 醫學士 山口秀高

東京神田區美土代町三丁目十七番地
内科一般 午前宅診 午後往診
電話本局貳千九百七十番
板垣亨

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保德太郎
毎日午前診察 毎日夕刻診察
東京麴町三番町廿三(電話番町三九五)
婦人科産科榊病院

◎京橋區南鍋町一の一角
産科婦人科 ◎朝八時より正午 ◎夕五時より八時
醫學士 伊庭秀榮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗用ワッセル

◎此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◎用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは（拾貳匁入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です
定價　拾貳匁入 金拾五錢　六拾匁入 金八拾錢入二錢

芳香御肌洗粉ワッセル

◎此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり
定價最上 金七拾五錢　金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢
英國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
三友商會

陸軍省御用達
銀杯
木杯
定價表
御入用之節ハ御通附可仕候
東京市日本橋區室町貳丁目
漆器蒔繪商
木屋本店
林九兵衛
電話本局 特九九七 一七一〇

斬新材料
舶來薄絹シホン
ホワイト
リープス
郵券五錢御送付相成候はゞ見本進呈可仕候
各女學校御用
附屬品幷に造花器械類一式
東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛
電話（長）浪花一六四三番
營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

ムスク香水
（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）
○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり
東京日本橋區本石町四丁目
ホーサン石鹸本舖
本舖　松澤常吉
（電話本局百四拾五番）

日本第一の大勸業場
（本場の特色）
◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市内無賃で配達致します
◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます
東京新橋角
電話新橋 一六五三 二二六二
帝國博品館

懐香油
パール

貴婦人用
紳士用
歐米化粧品輸入商
東京濱町一 電話浪花一一〇
平尾分店
香油ゴールドオイル發賣元

戰勝紀念ピン

銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
定價 純銀製 一個 金三十五錢以上
餘は御好み次第迅速調製可仕候
手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝しあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候
宮内省御用達
東京市下谷區池の端仲町
玉寶堂
電話下谷 特九六五番 一二四四番

來る六月一日より十五日まで
陳列場落成夏衣大賣出し
日本橋通四丁目角
松屋呉服店
牛山武兵衛
電話本局 六〇八 七一一六

佛國パリー直輸入
ピンク白粉
芳香頗ル高評
輸入元 倉田山海堂
東京市日本橋區小傳馬上町

華族女學校學監
下田歌子女史著
女子の修養
總ふりかな附
▲廿世紀的女子の本分を守るは本書也
▲家庭團欒の捷徑を說けるは本書の特色也
▲女子教育の眞理を平易通俗に說明して遺憾無し
洋裝頗る美本全一册 正價金七十錢 郵稅八錢
▲淫靡放縱の弊を矯め貞淑勤勉の美をやしなふ
▲交際應接の作方を敎ゆるは本書の特色也
▲行文流暢趣味津々女流必須の寶典也
發兌　東京京橋區南大工町一　弘道館

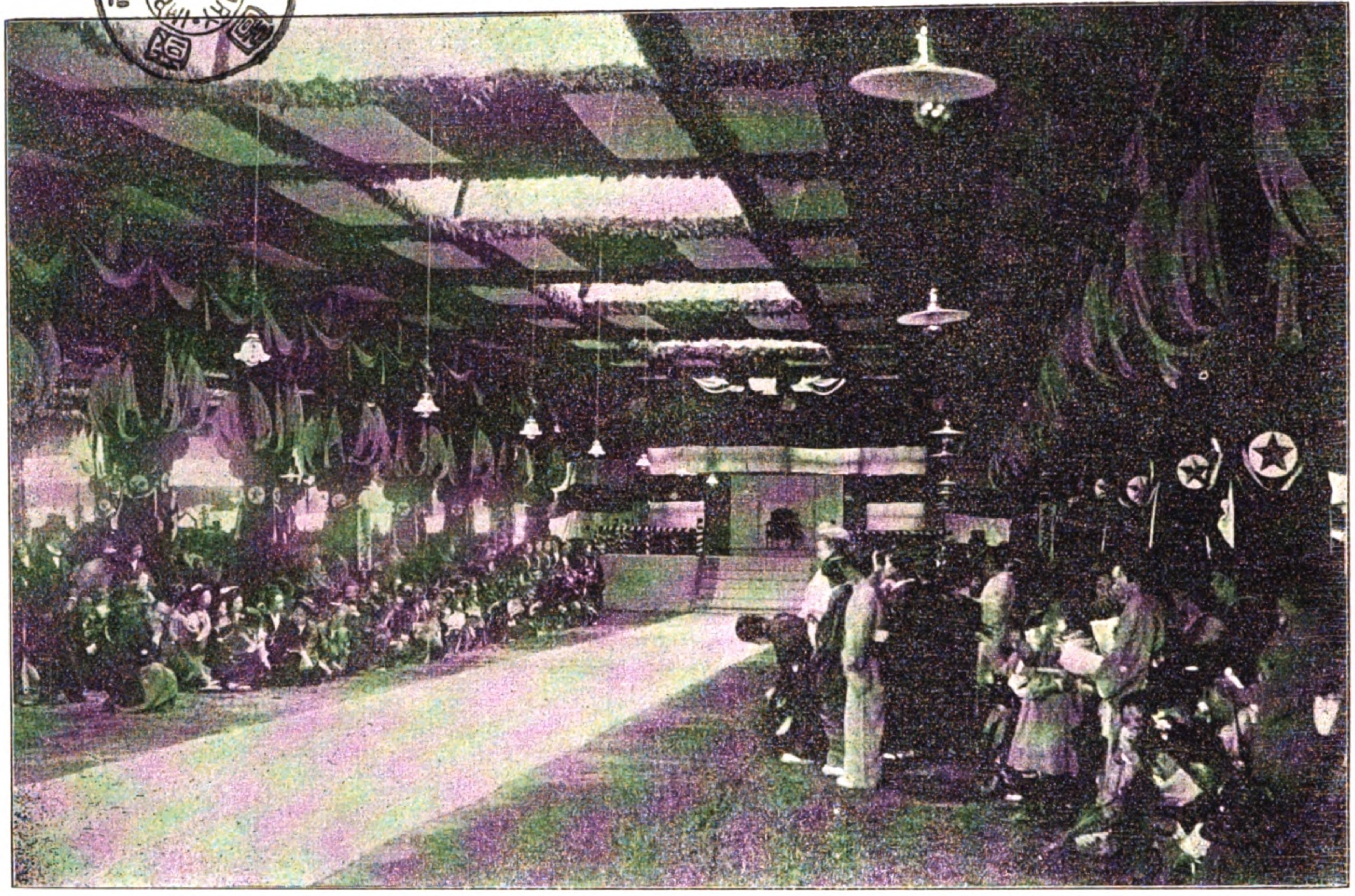
愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田千代田町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸堂
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜社
京橋區日吉町 帝國通信社
同區弥左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

明治三十九年六月五日發行（毎月五日二十日二回）
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄
發行所 東京麹町 愛國婦人發行所
印刷所 秀英舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

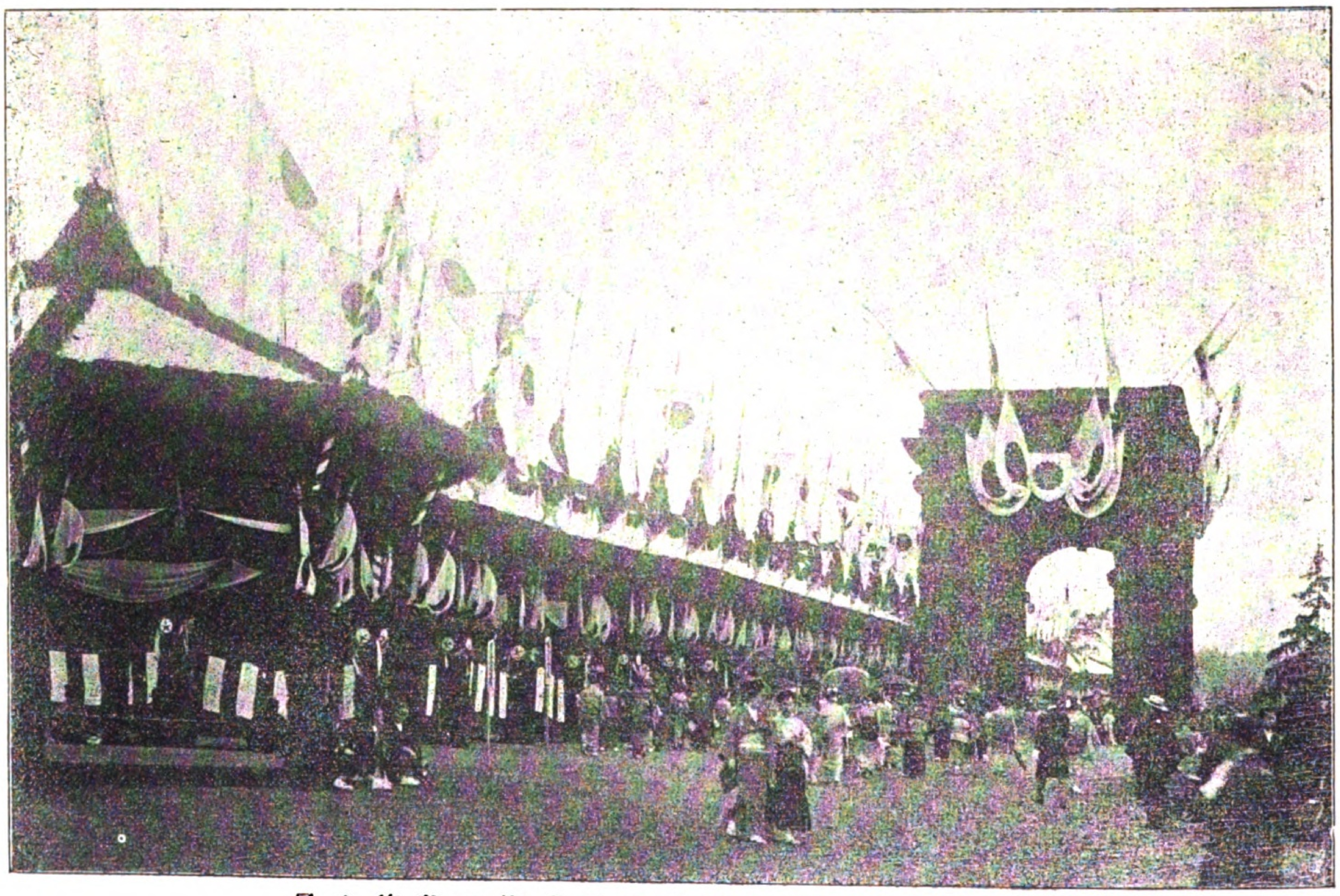
帝國圖書館
IMPERIAL LIBRARY

明治三十九年六月五日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月廿七日（第三種郵便物認可）



愛國婦人會第五回總會開式前の光景

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場



愛國婦人會第五回總會會員式場に參集光景

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN